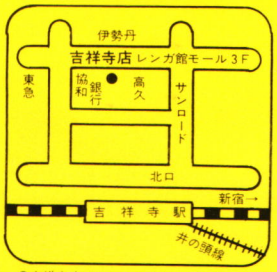
昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和55年2月15日発行（毎月1回15日発行通巻第124号）

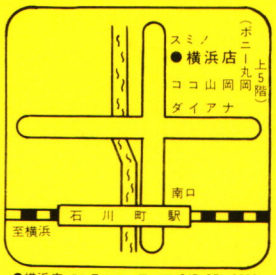
バドミントン2

日本バドミントン協会　The Badminton World No.124 1980





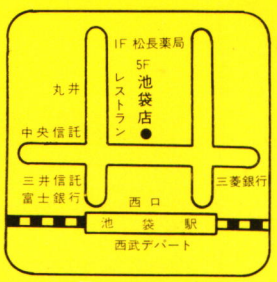
●吉祥寺店　バドミントン・プロショップ
☎0422-21-7890



●横浜店 5Fテニス・フロア 045-651-2020
☎ 045-662-9857
4Fバドミントン・フロア
☎ 045-662-7133



●渋谷店　バドミントン・プロショップ
☎03-400-7390



●池袋店　バドミントン・プロショップ
☎03-988-0215

ラケットショップ元町

はずめ'80 有頂天の彼方へ!!



沿

バドミントン2

❷
ワールドカップ'80
余裕しゃくしゃく、リム・スイ・キン

❹
ワールドカップ'80
コーペン揺がず2連勝

❻
ワールドカップ'80
クリスチャン・チャンドラ、圧倒的

❽
ワールドカップ'80
世界への第一歩、徳田・米倉

❿
大正7年製ラケット発見!!

⓬
関西学生第1回ガッツ&フェアプレー賞
鳳　浩希、阿部俊子

⓮
第11回全日本女子チャンピオンズ・トーナメント　米倉〝4代目〟チャンピオン

㉔
バドミントンの用語ABC／後藤忠弘
Cの項

㉖
われらのクラブ　有秋台バドミントン協会
人数は多く、会費は安く、技術は高く

㉘
第26回近畿高等学校選手権大会

㉜
ベター・バドミントン
テレビがお手本

㉞
TOKYO　LETTER

㊳
第10回沖縄県高校新人戦

◇表紙デザイン・構成、本文カット＝野間デザイン室
◇今月の表紙＝ワールドカップ'80 女子ダブルスで初優勝した徳田敦子、米倉よし子選手　撮影＝赤星三樹

く、リム・スイ・キン

第2回を迎えたバドミントン・ワールドカップが、1月18日から20日までの3日間、京都府立体育館で開催されました。

昨年に続く世界のトッププレーヤーたちの来日で、雪の京都にもかかわらず、各種目に熱戦が繰り広げられました。

結果は、世界最強のリム・スイ・キン、リーン・コーペンがそれぞれ男女シングルスに2連勝。チャンドラ・クリスチャン組も底力を見せて男子ダブルスを連覇。

日本期待の女子ダブルスは、徳田米倉組が全英チャンピオン、イメルダ・ベラワティ組を倒して初優勝に輝きました。

土田、デルフス撃破

▼男子シングルス1回戦

カーター（C）2 15—15 15—6 9—15 1 尾崎幹雄
ジョリー（E）2 15—15 16—12 18—15 1 西山博司
フラカシュ（I）2 15—15 4—15 0 飯野佳孝
スティブンス（E）2 15—15 5—9 0 辻　敏弘
銭谷欽治 2 15—9 15—12 9—15 1 ダニー（IN）
リム・スイ・キン 2 15—15 1—2 0 カーター（IN）
土田証雄 2 15—15 10—12 0 カールソン（S）

▼同2回戦

ポンゴ（IN）2 15—12 15—6 15—10 1 長谷川博幸
デルフス（D）2 16—15 6—8 6—8 0 長谷川進
リム・スイ・キン 2 15—15 8—5 0 スティブンス
プラカシュ 15—3 15—2 0 銭谷欽治
土田証雄 2 15—15 1—6 0 ジョリー
デルフス 2 15—15 11—8 0 ポンゴ

▼同準々決勝

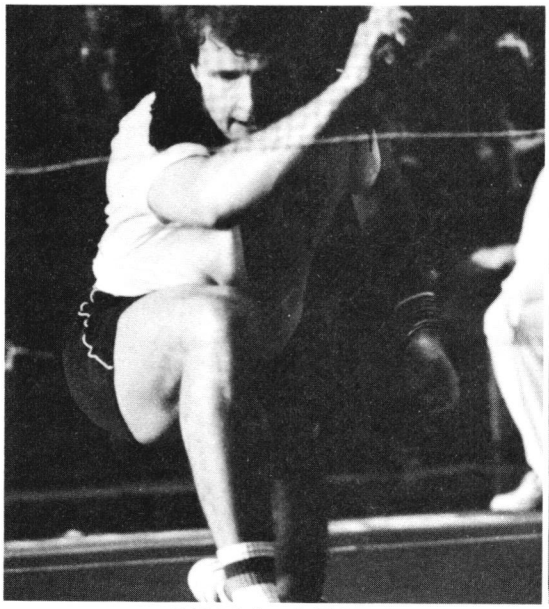
リム・スイ・キン 2 15—15 15—8 0 スティブンス
プラカシュ 15—15 6—15 0 土田証雄 2
デルフス 2 15—15 13—10 0 土田証雄 2

▼同準決勝

リム・スイ・キン 2 15—15 15—6 0 プラカシュ
デルフス 2 15—15 11—8 0 ポンゴ

▼同決勝

リム・スイ・キン 2 15—15 15—12 0 デルフス



元気のなかったデルフス



ポーズにも余裕が、リム・スイ・キン

ワールドカップ'80

余裕しゃくしゃ

リム・スイ・キン（15―6 15―10）0土田証雄
（リム・スイ・キンは2連勝）

またもや、世界一の〝人間速射砲〟リム・スイ・キンの圧勝に終ったが、連日男子シングルスならではの熱戦が随所に繰り広げられた。

初日にはまず、インドネシアと日本の若手ナンバー1同士の対決、リュース・ポンゴ対長谷川。

第1ゲームは、長谷川が先手先手と攻め、両サイド奥へ押し込んでからカット気味のスマッシュを決めて先取したが、ポンゴは第2ゲーム、体が温まってきたのか、前半から意欲的に飛び出してタイに持ち込み、若手同士らしい白熱したゲーム展開となった。

ファイナルゲームは、前半、長谷川が6―1と大きくリードしたが、ポンゴも猛然と打ち出し7オール。ヘアピンにも冴えが出て、一気に12―7と大勢を決めてしまった。

技術的にはやや長谷川が上回っていたが、ポンゴの魅力は何といってもスタミナに尽きる。長い試合になればなるほど元気が出てくるといった印象で、さすがの長谷川も兜を脱いだ格好となった。

ポンゴは、次の試合で〝北欧の雄〟デルフスと対戦、決め手のなさから苦戦を強いられたが、デルフスを〝真剣〟にさせたあたり、とても19歳とは思えない粘りがあった。

これも若手同士の争いとなったケビン・ジョリー対西山は、第2ゲーム、西山がセッティングで奪い返し、ファイナルゲームも12―8と、あわやと思わせた。

しかし、負けん気の強いジョリーの猛反撃にあって、あえなく逆転負けを喫したが、若さ溢れる好試合だった。

日本の期待・銭谷は、サルティカ・ダニーをフルゲームの末降して面目躍如たるところを見せたが、パデュコーン・プラカシュには完敗。

速いクリアー、速いカットを的確に決められて、為す術なく敗れ去った。

そのプラカシュは、準決勝でリム・スイ・キンと激突、世界を狙うプレーヤーらしい素晴らしいフットワークを披露してくれた。

第1ゲームは7―8、第2ゲームは6オールと、中盤までは一歩も退かない互角のラリー、フットワークの素早さはリム・スイ・キンを凌ぐかと思えるほど、高い打点でのヘアピン、ハーフスピードのクロススマッシュにプラカシュならではの持ち味を出して善戦した。

しかし、中盤から押し切るだけの迫力にやや欠けていたのも見逃せない。

リム・スイ・キンが、試合後半になると猛然とラッシュをかけるのに比べ、プラカシュは終始変らぬ同一ペース。

リム・スイ・キンの壁を破るには、この単調なペースに緩急の変化を与えられるだけの、攻撃力が必要とされるだろう。

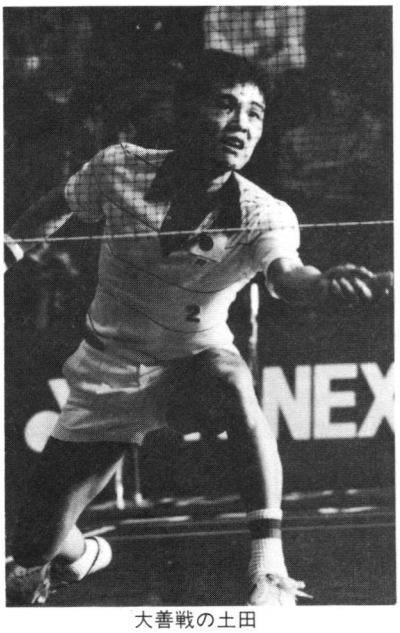
そして、今までの攻撃一点張りの単調な試合運びから脱し、幅が出てきたのが土田。

デルフスとの準決勝、長身のデルフスとの打ち合いを避け、何時もよりクリアーとカットを多用、集中力を欠くデルフスのミスを上手く誘発させた。

土田の切れの良いクロススマッシュが、乱発しないことによって、フェイントの効果をより一層大きくしたようだった。

リム・スイ・キンの余裕しゃくしゃくの優勝には、まったく言葉がない。

「ハルトノさんの全英8回優勝は難かしいが、できれば目標にしたい。日本選手も毎日基本練習をすれば、きっと強くなります。銭谷選手は素晴らしいプレーヤーだと思う。当分結婚の予定はありません」と、はにかみながら語ってくれたのを付け加えておこう。



大善戦の土田

がず2連勝

米倉、湯木あと一歩

▼女子シングルス1回戦

黄　善愛　2（11—11—5—11）1　石田ひとみ（K）
ウェブスター（E）　2（11—11—5）0　高田幹子
ラーセン　2（11—11—8—11）1　関根和子（D）
カーター（C）　2（11—7—11—8）1　大塚ソノエ

▼同2回戦

コーペン（D）　2（11—11—4）0　黄　善愛
徳田敦子　2（12—9—11—0）0　ダマヤンティ（IN）
チャン・ソー・ガン（IN）　2（11—12—11—5—15）1　北田スミ子
米倉よし子　2（11—8—11—4）0　ウェブスター
ラーセン　2（11—6—11—4）0　ベラワティ（IN）
近藤小織　2（11—3—11—6）0　ペリー（E）
東海林文子　2（11—7—11—4）0　ビューセコム（H）
湯木博恵　2（11—6—11—2）0　カーター

▼同準々決勝

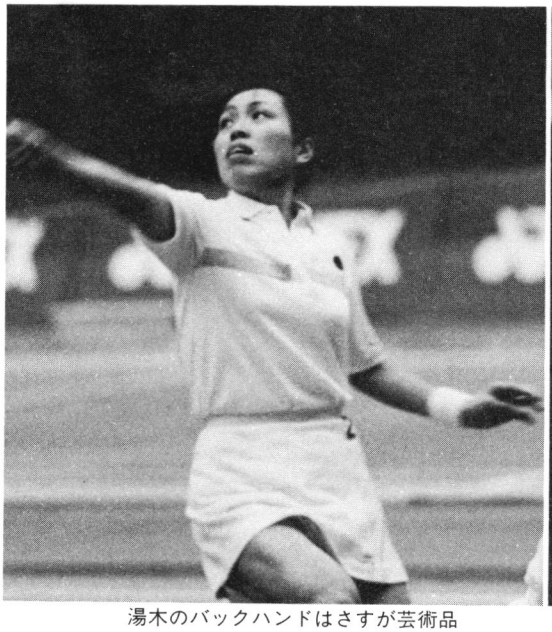
コーペン　2（11—2—11—0）0　徳田敦子
米倉よし子　2（11—6—0—11—11—0）1　チャン・ソー・ガン
ラーセン　2（11—6—11—8）0　近藤小織
湯木博恵　2（11—9—11—2）0　ビューセコム
▼同準決勝
コーペン　2（11—5—11—8）0　米倉よし子
湯木博恵　2（11—5—11—7）0　ラーセン

▼同決勝

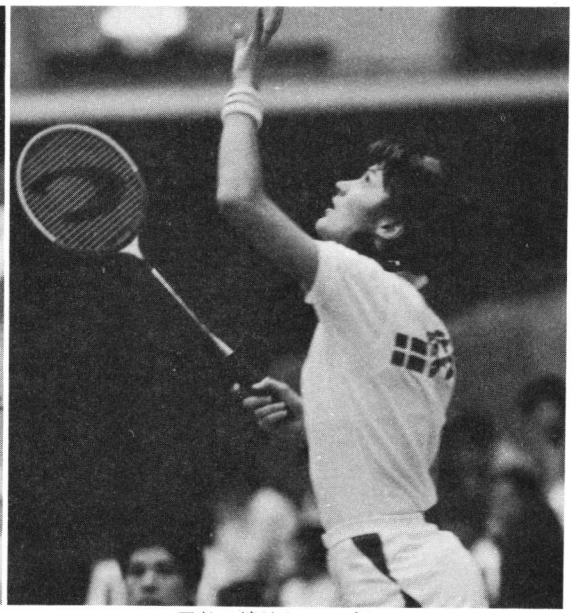
コーペン　2（12—11—11—4）0　湯木博恵
（コーペンは2連勝）

日本の徳田が、米倉が、湯木がコーペンに挑んだが、厚い壁のような牙城を打ち崩すことができなかった。

準決勝の米倉は、速い揺さぶりをかけて頑張ったが、速いクリアーではコーペンの方が一枚上、米倉の身上であるスピードも、対コーペン用にひと工夫必要のようだ。



湯木のバックハンドはさすが芸術品



円熟の境地かコーペン

ワールドカップ'80

コーペン揺

しかし、米倉は第1ゲーム、3―8から7―8まで挽回し、さらに8―9と手に汗を握るような白熱した試合を展開し、持てる力を全部出し尽すファイトを示した。

敗れたとはいえ、内容は次回の挑戦に期待を抱かせるのに充分だった。

決勝では、湯木もコーペンと大接戦、第2ゲームの攻防は観衆の一喜一憂を誘った。

第1ゲームを、コーペンの執拗なクリアー攻めに遇い、サイドへのミスを繰り返した湯木だったが、第2ゲームになるとコーペンのお株を奪うように深いクリアーで対抗、0オールから5度目のサービス権で得点するなど、序盤から競り合の様相を呈した。

クリアーでは定評のある湯木、そのクリアーが好調になって、4―1、6―2、8―2と大差をつけて逃げ込もうとしたが、さすがに〝強者〟コーペン、まだまだ諦める様子は何処にも見せず、ショートサービスを送るなど追いかける意欲がありありとうかがえた。

ジリジリと追い上げるコーペンの重圧に押されたのか、湯木もなかなか得点を加えることができぬまま、ついに8オール。

両者譲らずセッティングになだれ込み、ここでもまた1オールのまま長いサービス権の移動が続いた。

結局、先に1オールから脱出したコーペンが、湯木を降して2年連続の王座についたが、悔まれるのは湯木の状況判断。

湯木自身も「1オールのとき、何度もショートサービスをしようと考えたんだけど」と述懐していたように、やや冷静さを欠いてムキになっていたようなきらいが感じられた。

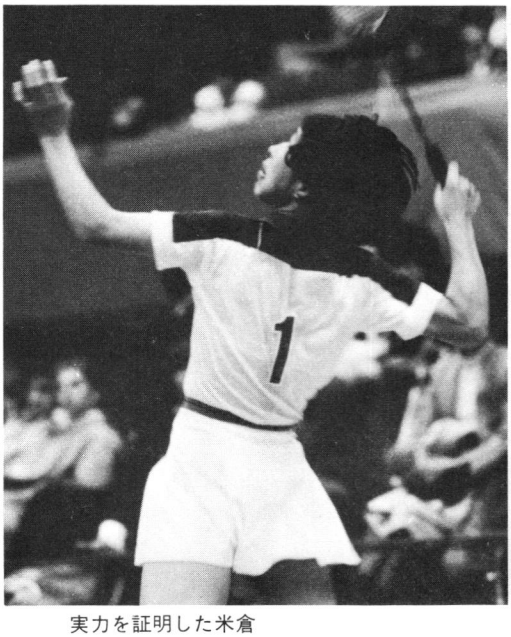
湯木でさえ冷静さを失ったほど、後半に盛り上がりを見せたまさに〝沸点〟に達した好ゲームだった。

そして、この大会で一躍クローズアップされたのが18歳の高校生、キルステン・ラーセン。

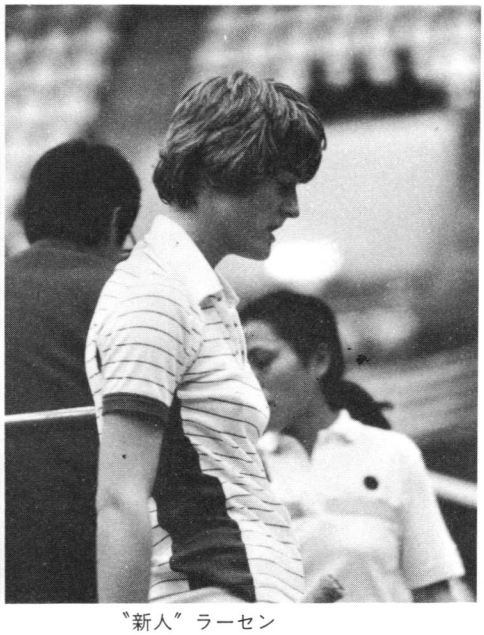
1回戦、関根に逆転勝ちしてから波に乗り、ベラワティ、近藤といった世界のトップクラスを連破して、堂々とベスト4にくい込んだ。

身長百八十センチ、体重六八キロの超大型の体軀から繰り出すストロークは魅力いっぱい。

二階から打ち降ろすような、柔軟な関節を利したクロススマッシュが武器の、昨年のヨーロッパ・ジュニア・チャンピオン顔をふりまいていたが、U杯を来年に控え、恐ろしい新人が出現したものである。



実力を証明した米倉



〝新人〟ラーセン

「3回目で、やっと近藤さんに勝てた。嬉しい」と無邪気な笑

ンドラが圧倒的

日本勢も大健闘

▼男子ダブルス1回戦

梅野尾
西山
2
18 15 10
16 10
0
リダー
ブルート
（H）

大場
田所
2
15 15 12
5 10 12
0
スティブンス、ジョリー（E）

長谷川博
辻
2
15 17 14
4 14 12
0
ダニー、ポンゴ（IN）

カールソン、ノルディン（S）
2
15 15 10
4 10 12
0
富田
酒井

▼同2回戦

チャンドラ、クリスチャン
2
15 15 6
5 6 10
0
梅野尾
西山
（IN）

池田
尾崎
2
15 5 15 10
2 15 10 12
1
田所
大場

デルフス、スコブガード（D）
2
15 12 15 12
9 15 12 10
1
辻
長谷川博

飯野
土田
2
15 15 10
11 10 12
0
カールソン、ノルディン

▼同準決勝

チャンドラ、クリスチャン
2
15 15 10
7 10 12
0
池田
尾崎

デルフス、スコブガード
2
15 15 10
10 10 12
0
飯野
土田

▼同決勝

チャンドラ、クリスチャン
2
15 15 6
3 6 12
0
デルフス、スコブガード
（チャンドラ、クリスチャン組は2連勝）

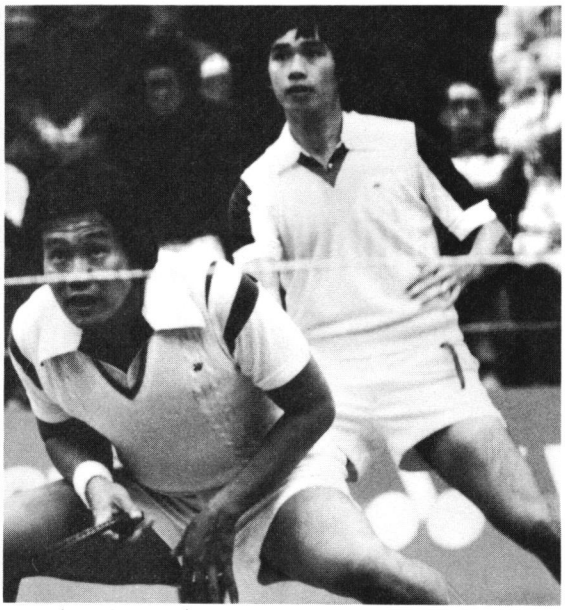
〝凄い〟の一語、決勝でのインドネシア・ペア、チャンドラ・クリスチャン組の圧倒的な強さは、対戦相手があのデルフス・スコブガード組だっただけに、思わずわが目を疑うほどの迫力があった。

いち時は、トマス杯メンバーから外され引退かと思われたチャンドラだったが、どっこい依然健在である。

確かに往年の威圧感のある攻撃力は陰をひそめたが、スマッシュを切り返すシャトルのスピードは随一、クリスチャンの決め球を引き出す導火線の役割り



大砲も不発、デルフス・スコブガード



息のぴったり合ったクリスチャン・チャンドラ

ワールドカップ'80

クリスチャン・チャ

はやはりチャンドラをおいて他にはない。

天才肌のクリスチャンとは対象的に、どこかぎごちない〝鷲摑み〟のグリップで、足はベタ足だが、長い間インドネシアを代表してきた実力はダテではなかった。

そして、クリスチャンの当代きっての前衛ぶり。

まるでシャトルがラケットに吸い寄せられるかのような錯覚がおきるくらい、無理のない自然な動き、自由自在のラケットさばきに相手は子供扱い。

準決勝の池田・尾崎戦、第1ゲーム、クリスチャンのサービスがあまくなって、7―9とリードされた以外はまったく危なげなく、決勝ではそれこそこれが決勝かと思われるような一方的な試合内容で圧勝した。

飯野・土田組は、昨年の全英2位、カールソン・ノルディン組に競り勝ち〝世界的ペア〟を実証したが、デルフス組には一度もリードを奪えず、ひと頃の破壊力ある攻撃が見られなかった。

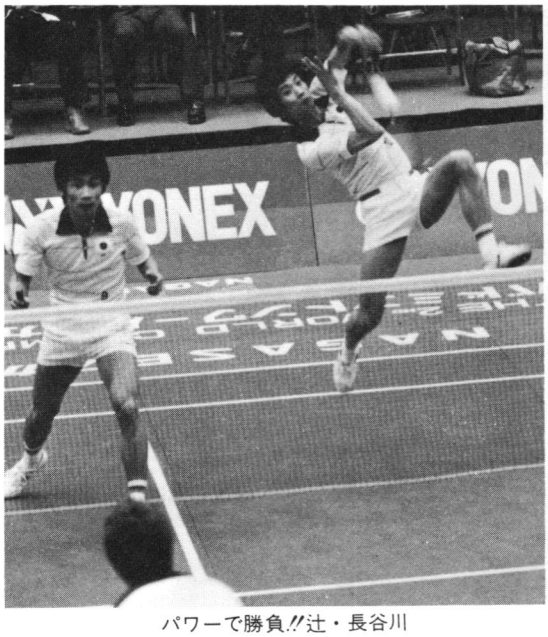
しかし、日本勢は飯野・土田組、池田・尾崎組のベスト4進出をはじめ、辻・長谷川組、田所・大場組が大健闘、世界のトッププレーヤーたちを相手に力強い互角のゲームを展開してくれた。

特に若い辻・長谷川組は、デルフス組に対し、少しも遜色のないパワーで対抗、第1ゲームは中盤10―9のリードを保てず逆転されたが、第2ゲームは5オールから12オールまでの競り合いに耐えぬき、ファイナルゲームに持ち込んだ。

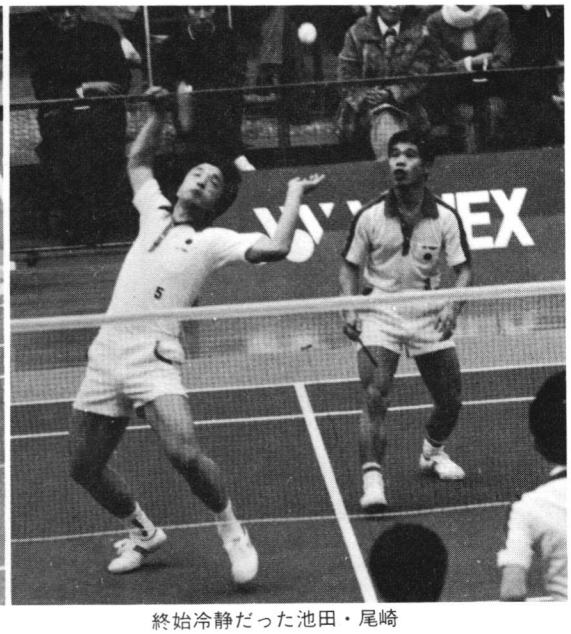
しかし、ファイナルゲームになると5―8、8―10と先手を取ることができなかったが、パワーの辻と、巧さの長谷川のコンビは魅力がいっぱい、〝第3のダブルス〟として期待がよせられる。

層が厚くなる一方の世界男子シングルス陣にくいこむのは容易なことではないが、比較的キメの荒いダブルスに活躍が見い出せそうだ。

クリスチャン・チャンドラ組とチュンチュン・ワジュディ組のインドネシアの2つのペアを別格にすれば、ヨーロッパ勢はいずれも調子の波があり、日本勢の健闘次第では大きく浮上するチャンスもあるように考えられる。



パワーで勝負!!辻・長谷川



終始冷静だった池田・尾崎

歩、徳田・米倉組

昨年の全英覇者を降す

▼女子ダブルス1回戦

関根 黄 善愛
大塚 甘 明淑（K）
15—4 15—6 2
0

梱野 ビューセ
月岡 コム、リ ダー（H）
15—7 12—15 15—17 2
1

秋谷 コーペン、
本平 ラーセン（D）
15—7 15—4 10—15 2
1

河村 ガン、ダ
マヤンテ イ（IN）
15—5 4—15 14—17 2
1

▼同2回戦

ベラワテ
イ、イメ
ルダ（IN）
15—3 15—9 2
0
関根
大塚

近藤
高田
ビューセ
コム、リ
ダー
15—10 15—8 2
0

ペリー、
ウェブス
ター（E）
15—9 15—9 2
0
秋谷
本平

米倉
徳田
15—4 15—6 2
0
河村

▼同準決勝

ベラワテ
イ、イメ
ルダ
15—3 11—15 15—9 2
1
近藤
高田

徳田
米倉
15—4 16—17 15—5 2
1
ペリー、
ウェブス
ター

▼同決勝

徳田
米倉
15—12 17—14 2
0
ベラワテ
イ、イメ
ルダ

（徳田・米倉組は初優勝）

徳田・米倉組が、オールジャパン制覇に続き、このビッグイベントでもユ杯保持国の最強ペアにふさわしい内容を見せた。

決勝の対戦相手となったのは、これも昨年の全英選手権獲得以来すっかりたくましくなったインドネシアの華、イメルダ・ベラワティのコンビ。

第1ゲームは、終盤に集中力の出た徳田組が、11—12から一気に逆転して先取、白熱した雰囲気のなか、第2ゲームを迎えた。

第2ゲーム、前半はベラワティのラウンド・ザ・ヘッドからのストレートスマッシュなどの強打が決まり、3—6と日本ペア劣勢のゲーム展開となったが、この日、動きの緩慢なイメルダのボディへ球を集中させて攻撃に回り、7オールと追いつき、試合は一段と激しさを増した。

本来なら前衛イメルダ、後衛ベラワティの陣型が望ましいインドネシア・ペアを、この試合に限り日本ペアがベラワティを前へ引きつけることに成功、その上にイメルダのスマッシュにスピードがなく苦しい戦いのインドネシア。

それでも試合巧者らしく競り合いに持ち込み、在日インドネシア人の大声援を受け、いったんは徳田・米倉の中間を割るストロークでコンビを攪乱し、12—10とリードを奪った。



攻守ともに満点だった徳田・米倉

ワールドカップ'80

世界への第一

しかし、ここでまたイメルダが、後衛から肩に力の入ったミスを出して、日本ペアは同点に追いつき、余勢をかってマッチポイントを握った。

が、ここからインドネシア・ペアもなかなか楽には勝たしてくれない。

やっとの思いで5回目のマッチポイント、ネット前の簡単なポップフライを米倉がミス、逆にベラワティに絶妙のスマッシュ、ヘアピンを決められて、セッティングへ持ち込まれたが、ベラワティにも調子の悪いイメルダをカバーする焦りがありありと見られた。

サービス権が日本ペアに移ってから、ネット前の処理を2本連続ベラワティがミス、最後もベラワティがカットをネットにひっかけて大接戦の幕が下りた。

早く決め球にしようとする心理は、ベラワティがまだまだ若いという証拠か。

それにしても、徳田・米倉の戦いぶりは見事。

何度もピンチを迎えながら、よく辛抱して切り抜け、新しい日本の看板となりつつある。

新聞その他の報道では、徳田のスマッシュ力、米倉のレシーブ力といわれているが、これは明らかに間違い。

このペアの勝利を一言で表現するなら〝徳田のレシーブ力プラス米倉のスピード〟であることは明確だ。

守備力では優りながらパワーで劣る日本人が、攻撃力でも得点できる〝スピード〟を武器にできるこの徳田・米倉組の、今後に寄せる期待は大きい。

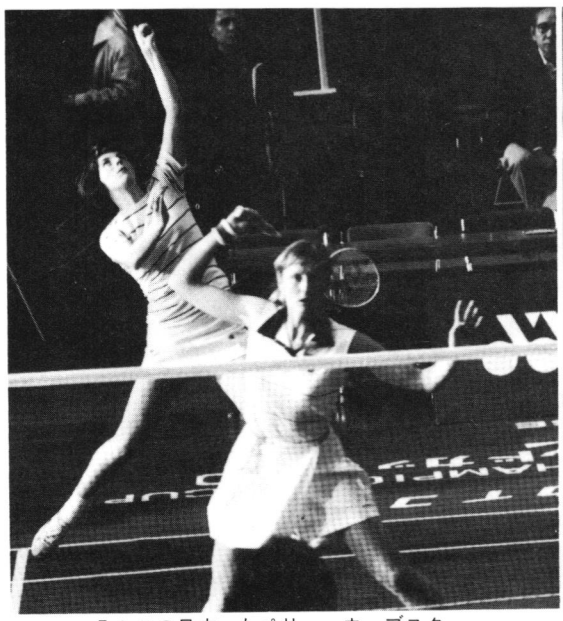
守備力を主体にした日本人とは対照的な、攻撃型のダブルスを見せてくれたのが、伝統を誇るイギリス・ペア、ペリー・ウエブスター組。

相変らずネット前でのテクニックは抜群、角度ある決め球を送り込むラケットワークに、思わず観客からため息が漏れていたほど。

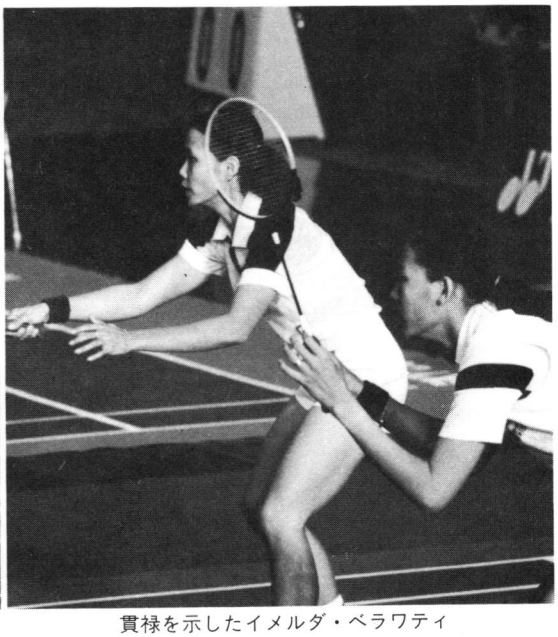
優勝した徳田組から、1ゲームを取ったのはこのイギリス・ペアだけ、ウェブスターに調子が出れば恐しい存在だ。

近藤・高田組は、攻撃と守備の差が余りにアンバランス、攻めているときは無類の強さを見せるが、守勢に回ると極端にもろさが目立つ。

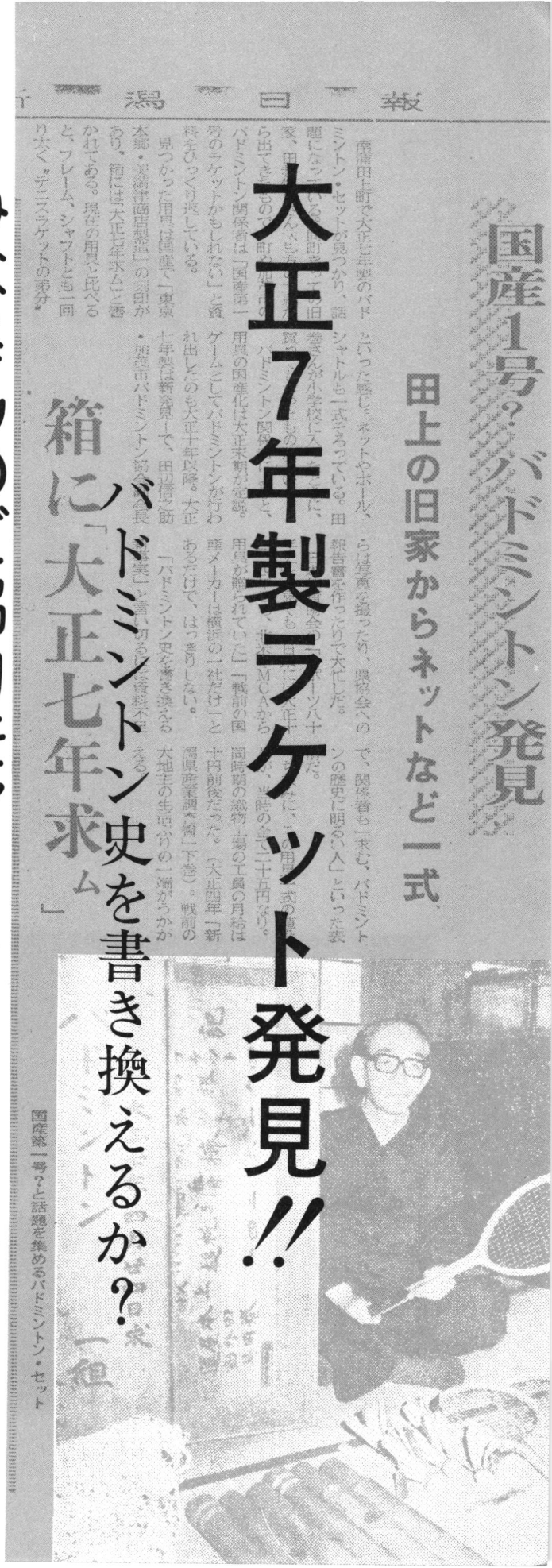
ひとつの壁を破るには、やはり近藤に小回りの利くダブルス的要素が加わらないと難しいであろう。



凡ミスの目立ったペリー・ウェブスター



貫禄を示したイメルダ・ベラワティ



みなさんのご協力を!!

今や国産バドミントン・ラケットは世界中を駆け巡り、トッププレーヤーもこぞって愛用するまでに普及を遂げているが、はたして国産ラケット第1号はいつ製造されたのであろうか……？

昨年12月16日付、新潟日報に「国産1号？バドミントン発見」のタイトルで、大正7年製のラケットの発見が報じられて、地元の関心を集めている。

新潟日報社の阿部孚氏（日本協会選手強化委員）のご好意により、当編集部へも資料が提供された。

発見されたラケットは全部で4本、重量は現在の百グラム前後のラケットの倍近い二百三十グラム、ガットもテニス用かと思われるような太さだが、グリップは堅牢なレザー張り、丁度スカッシュ・ラケットといった感じ。アヒルの羽根のシャトル6個、木製のポール（百八十センチ）、ネットとともに立派な木の箱に収められていたという。

しかし、これが国産第1号と実証できる決め手がないことも事実。この発見されたものをもとに調査を進めていくことが、日本のバドミントン史に新事実を投げかけることになる。

早速、ヨネックス・スポーツ（株）営業課長・土田隆氏の調査によると「東京本郷美満津製造」とある〝美満津〟は、創業明治5年、亀戸に製造工場を持つほどの、戦前の大きなスポーツ総合店であったが、戦災ですべてを焼失、当時の関係者も高齢のためほとんどの方が死去されたとのこと。

当編集部もこの貴重な資料を無駄にすることのないよう、調査を開始、次号より継続して結果を掲載します。

しかし、微力な当編集部の力だけでは限界があり、これこそ読者の皆さんのご協力を、切にお願いしたい次第である。

なにはともあれ、当日の新潟日報をご紹介すると……。

地元関係者、右往左往

南蒲田上町で大正7年製のバドミントン・セットが見つかり、話題になっている。同町きっての旧家、田巻恒彦さん（67）方の土蔵から出てきたもので、町や加茂市のバドミントン関係者は「国産第1号のラケットかもしれない」と資料をひっくり返して見つかった用具は国産で「東京本郷・美満津商店製造」の刻印があり、箱には「大正七年求ム」と書かれてある。現在の用具と比べると、フレーム、シャフトとも一回り太く〝テニスラケットの弟分〟といった感じ。

ネットやポール、シャトルも一式そろっている。田巻さんが小学校に入ったときに、買ってもらったものだという。

バドミントン関係者によると、用具の国産化は大正末期が定説。ゲームとしてバドミントンが行われ出したのも大正10年以降。大正7年製は新発見――で、田辺信之助・加茂市バドミントン協会副会長らは写真を撮ったり、県協会への報告書を作ったりで大忙しだ。

日本体育協会の「スポーツ八十年史」を見も「日本には大正13、14年ごろ、北米YMCAから用具が贈られていた」「戦前の国産メーカーは横浜の一社だけ」とあるだけで、はっきりしない。

「バドミントン史を書き換える新事実」と言い切るには資料不足で、関係者も「求む、バドミントンの歴史に明るい人」といった表情だ。

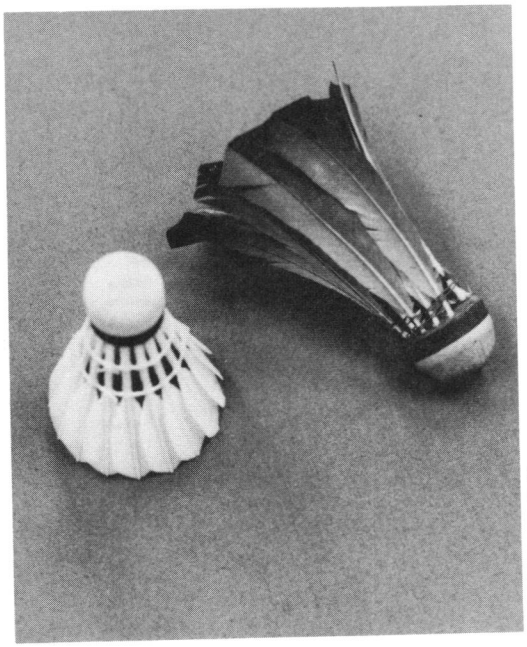
ちなみに、この用具一式の値段だが、当時の金で25円なり。同時期の織物工場の工員の月給は10円前後だった。（大正4年「新潟県産業調査書」下巻）。戦前の大地主の生活ぶりの一端がうかがえる。

（12月16日付「新潟日報」より）

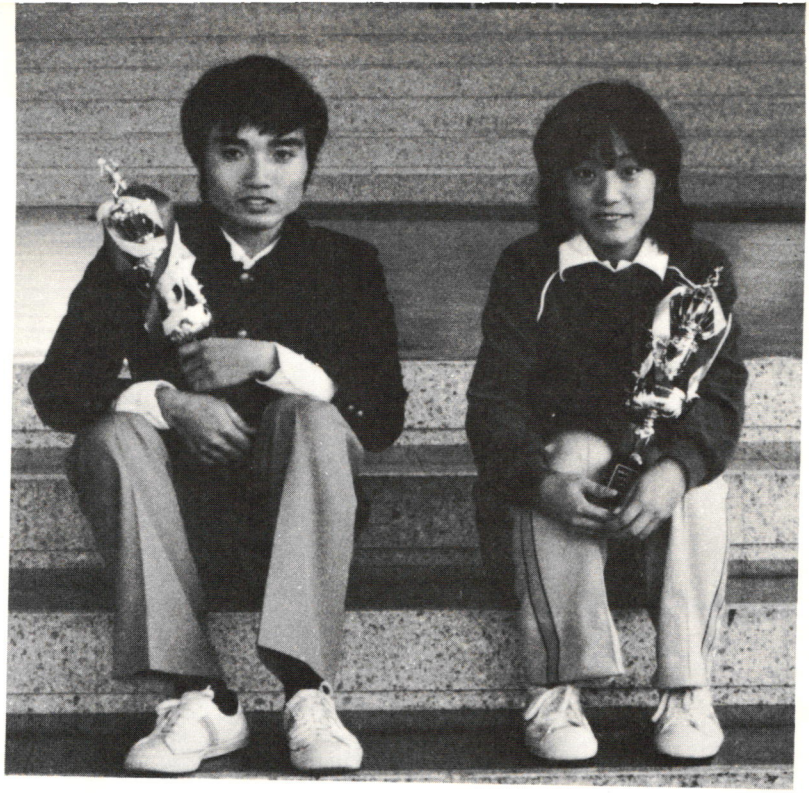


国産第1号？　新潟で発見されたバドミントン・セット


230グラムのラケット▶


現在のものと比較すると大変興味深い

羽根つきの親分◀



旧聞になりますが、昨春から関東学生リーグの殊勲者に贈られた、本誌編集部の〝ガッツ&フェアプレー賞〟が昨秋から関西学生リーグでも実施され、その第1回受賞の龍谷大学・鳳浩希クン、天理大学・阿部俊子さんから「受賞の喜び」が届きました。

関西学生リーグ・第1回ガッツ&フェアプレー賞

たんぽぽのように

龍谷大……鳳　浩希

春季リーグで、龍谷大学としては8年ぶりの1部昇格を果たし、この秋、初めて1部でプレーをすることができ、龍谷大学バドミントン部創立以来最高の4位という成績を残すことができました。

それだけで十分と思っていたのに、思いがけぬ賞を頂いて、また、第1回目のガッツ&フェアプレー賞ということで光栄に思っています。

1部で8勝2敗、特にシングルス5戦をすべてファイナルゲームのすえ勝つことができたのも、多分にラッキーな面があったように思います。

まだまだトップレベルとの差のあることを実感し、特にパワー不足、バックの弱さを痛切に感じ、攻撃的なプレーを身につけることが必要と思いました。

この賞を受賞できたのも、毎日ともに汗を流してきた部員みんなの協力のお陰ということはいうまでもありませんが、まだ自分自身未熟で、本当にこういう賞を頂けるほどの実力を身につけているとは思えません。

「踏まれても　咲くたんぽぽの笑顔かな」

一見、可愛らしい感じの詩ですが、バドミントン精神にもあてはまる気力ある、力強い詩ではないでしょうか。

これからも、この精神を持って頑張りたいと思っている次第です。

大学に頂いた賞

天理大……阿部　俊子

1部へ昇格して初めての試合。2部や3部と違って、予想通りどの試合も「やっとの思いで勝った」というものばかりでした。

自分ではただ無心に戦っただけ、それが結果は2位。それだけでも喜んでいるのに、その上〝ガッツ&フェアプレー賞〟なんて個人賞を頂いて、たいへん嬉しく思っています。

でも、私一人が頑張ったわけではなく、大学のみんなも私以上に頑張ってくれたと思います。

天理大学が4部から3部、2部、そして1部へと昇ってこれたのも、私一人の力ではないと思っています。

だから、この度の受賞も、私がもらったのではなく、大学へ頂いたものだと思いたいのです。

これからも、1部優勝を目標に、そしてこの賞を頂いたことに恥じないように、精一杯努力したいと思います。

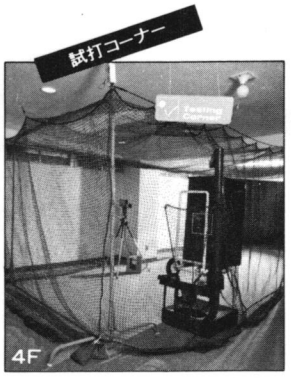
ずらり、4店勢揃い。

渋谷店

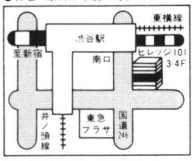
170坪

650㎡の広々とした店内でゆったりショッピング。
試打コーナーも人気上々。





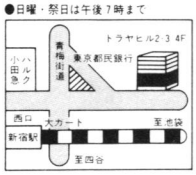
毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7（ヒレッジ101ビル3・4階）TEL03-464-9251〒150
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで

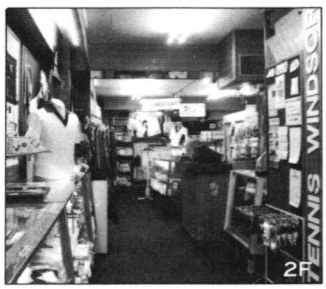


新宿店

落ち着いた雰囲気でお買いもの。各階それぞれの
楽しさがいっぱい。

毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都新宿区西新宿7-10-20（トラヤヒル2・3・4階）TEL03-363-6848〒160
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで





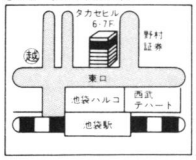




池袋店

つぶ揃いのテニス、バドミントン用品が
店内にあふれんばかり。

毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都豊島区東池袋1-1-4（タカセヒル6・7階）TEL03-989-0401〒170
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで







横浜店

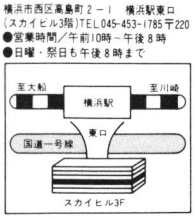
ラケット、ウェア、シューズ……すべてに豊富な品揃え。
選びやすい各コーナー。







年中無休
横浜市西区高島町2-1　横浜駅東口（スカイヒル3階）TEL045-453-1785〒220
●営業時間／午前10時～午後8時
●日曜・祭日も午後8時まで



日本最大のテニス・バド専門店
WINDSOR RACKET SHOP

信頼のマーク WINDSOR ウインザー ラケットショップ。



インタビューに答える顔も明暗くっきり、米倉(中)、東海林(右)

第11回全日本女子チャンピオンズ・トーナメント

米倉〝4代目〟チャンピオンに

北田健闘、偉材ぶり発揮

2月17日、第11回全日本女子チャンピオンズ・トーナメントが、東京代々木第2体育館で行なわれました。

過去7回の優勝を誇る湯木が、肉離れのため欠場という、一抹の寂しさはありましたが、充実著しい米倉、スランプ脱出を図る徳田、近藤、伸び盛りの東海林、北田など多士済々の顔ぶれが揃い、ユ杯保持国らしい華やかな大会となりました。

▼1回戦

1回戦で注目されたのは、何といっても2年連続高校三冠王となった北田スミ子。

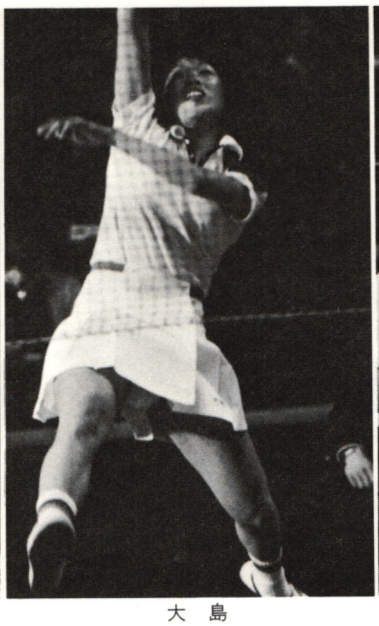
調子の波が激しい近藤だけに予想の困難な試合だったが、スタートから気合いの入った近藤が、積極的なスマッシュ攻撃に出て、まず5—3と序盤戦をリード。

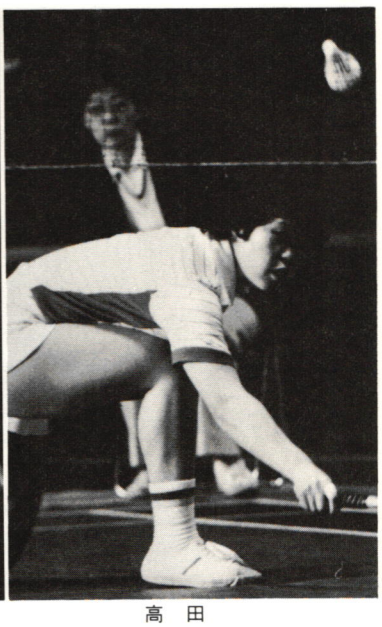
しかし、北田も次第に会場の雰囲気に慣れたのか、声を出して懸命に応戦の構え。

サービスミスを2本続けるなど荒削りな面も見せたが、両サイドへクロススマッシュを的確

徳田敦子（サント2）	11—6 11—5	0	み（日女体大）	
東海林文子（サン2トリー）	11—1 4—11 11—2	1	高田幹子（サントリー）	
近藤小織（カワサキ）	11—8 11—9	0	子（四条畷高）	石田ひと
米倉よし子（電電東京）	11—3 11—4	0	大島和代（栃木小城高教）	


徳　田


大　島


高　田

に決めて、徐々に追い上げ5―8から、8オールへと持ち込んだ。

北田がサービス権を得て、同点から抜け出す絶好のチャンスに、まったく予期することのできないショットが生まれた。

それは、近藤のコート中央から北田のバックサイドへのクロススマッシュ。

角度からすれば完全にアウト、北田も一瞬、体の緊張を解いて選球の体勢に入った。

しかし、これが皮肉にもネットテープを直撃、そのままヘアピンのようにオン・ラインに決ってしまった。

バック寄りのネットへ触れて急降下した地点がオン・ラインである。恐らくネットに当たらなければ、ダブルスのサイドライン近くのミス・ショットであった。

大事な場面でのこの明暗。

ガックリ肩を落とした北田は、さすがにショックの大きさを隠せず、連続ミスを出して第1ゲームを失ってしまった。

それでも北田は、第2ゲーム、中盤までの2―7の苦境を、ドリブンサービスでペースを変えるなど、大器の片鱗は充分。

2―7から7オールへ追い上げた辺りは、ラウンド・ザ・ヘッドからのクロススマッシュ、バックハンドのクロスネットなどの高校生ばなれしたテクニックを披露した。

特に目を見張ったのは、バックハンドのクロスカット。

まだまだ完璧とはいえないが、トッププレーヤーでも会得し難いショットを、すでにゲーム中に駆使できるのは、その手首の柔らかさとともに注目に値いする。

試合は、第1ゲーム同様8オールからの終盤に、集中力が解けて敗れはしたが、評判を裏づける大健闘だった。

一方、大学チャンピオンの石田は、第1ゲーム立ち上がりから1球目の凡ミスが多く、大きく引き離されて苦戦、第2ゲームは5オールまで執拗にくい下がったが、練習不足と見られるような何でもないミスを肝心なところで犯して、持ち味を充分に発揮することができなかった。

〝女王〟湯木が肉離れのため不出場。急拠ピンチヒッターとなった高田は、僚友・東海林に対し第2ゲームを奪う善戦だったが、やはり活躍の場はダブルスか。

初出場の教員代表・大島は、晴れの檜舞台ということもあってか、米倉のスピードに追いつくのが精一杯、ようやく地に足が付く状態になったのが終了間際、得意の長身からの攻めが見られなかったのは残念だった。

▼準決勝

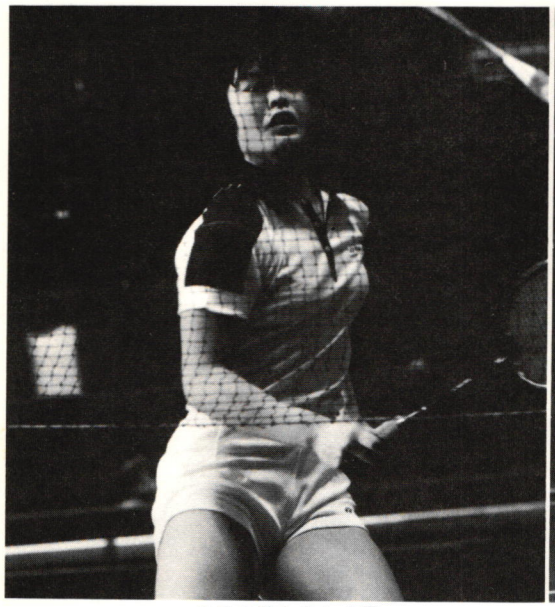
東海林文子　2（11―1　12―10）0　米倉よし子

ここのところしばらく不振を囲っていた徳田、近藤は、それぞれ上昇気配を見せてくれたが、決勝進出に至るにはあと一息だった。

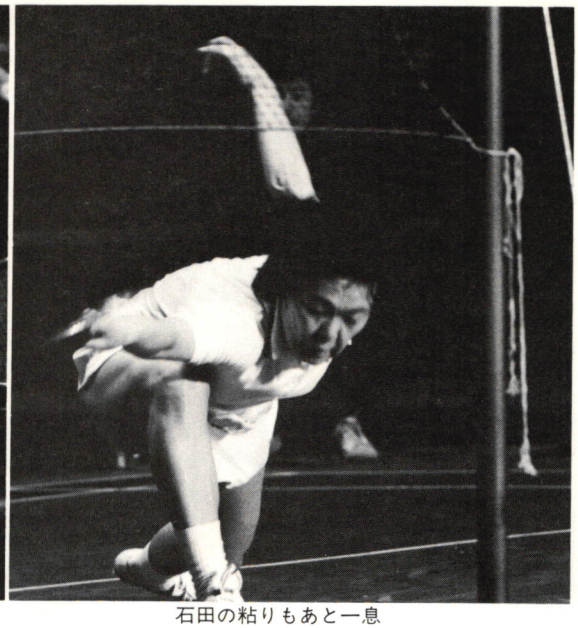
徳田は、僚友・東海林に対し第1ゲーム、3―7の劣勢をジリジリと挽回、ショートサービスを多用するなど工夫を示して8オール、9オールと競り合いに持ち込んだが、ゲームポイントを先に取りながら、激しいドライブの応酬などに打ち負けて第1ゲームを失った。

気を取り直した徳田は、第2ゲームに入ると、チャンスを見逃がさない鋭いスマッシュ攻撃を繰り出して、前半を5―0と大きくリードした。

しかし根気を欠く徳田は、東



会場を沸かせた北田



石田の粘りもあと一息

海林の力強いショットに手を焼き挽回を許し、ウイニング・シヨットが東海林の出したラケットに当たるなどアンラッキーにもあって、なかなかペースをつかみ切れない。

8オールまで一進一退が続いたが、東海林のサービスを見送ったのが「イン」、痛いジャッジミスをして朋友に勝ちを譲ってしまった。

近藤も、久し振りに近藤らしい〝豪快〟なプレーを披露して、完全復調まであと一歩という感じ。

米倉との第1ゲームは、随所にジャンプスマッシュを繰り出し、スピードも豊かで本来の近藤の攻撃型バドミントン。

一度も米倉にリードを与えず、10—8とした頃は、ドリブンクリアーが米倉のバックを突いて勝負があったかと思わせた。

しかし、波に乗り切れないところが最近の近藤の〝悪い癖〟。せっかく攻め込みながら、ノータッチを与えられないと、逆に凡ミスを犯す精神的な〝もろさ〟が顔を出してしまった。

逆に、ゲームポイントを握られても動じない、米倉の落ち着いたゲーム運びに逆転を許すありさま。

第2ゲームになると、開始早々にサービスとドリブンクリアーを立て続けにミス、ともにバック・バウンダリー・ラインをオーバーしたためか、以後、力強い歯切れの良いショットがまったく見られなくなって、一方的に押し切られてしまった。

しかし、ひと頃の極端なスランプ状態に比べると、徳田、近藤とも立ち直りのきざしがうかがえ、全英での朗報に期待したいところ。

▼決勝

米倉よし子 2 (11—6, 11—5) 0 東海林文子

（米倉は初優勝）

湯木が欠場、徳田、近藤の立ち直りが今一歩ということで、米倉の決勝進出は当然といえば当然。

そして更に日本バドミントン界にとって明かるい材料は、昨年のカナダ・オープンでベラワティを降し優勝、頭角を現わしてきた東海林が、〝4強〟の一角徳田を破ってファイナリストとなったことである。

決勝では、さすがに脂の乗り切った米倉に一歩およばなかったが、サウスポー独特のカットショット、フォアで回り込んだときの力強いストロークは、今までの女子選手には見られなかったもの。

選手強化委員長・杉田氏も絶賛する「素晴らしい脚力」、先輩・徳田と堂々と渡り合った図太い精神力、シングルス・プレーヤーに必要な資産を無限に秘めた〝新しいスター〟の誕生である。

これまでにも好成績はあったが、日本での決勝進出はこれが初めて、日本ファンの目前で飛躍の第一歩を記すことになった。

優勝の米倉は、オールジャパンに次いで二つ目のビッグタイトルは、過去のインカレ優勝からの着実な成長を裏付けるもの、今大会で特に目を見張らせたのは、風格さえ感じさせる試合運びだった。

劣勢になると、一球一球に間合いを取って連続得点を与えない冷静さを呼び戻し、チャンスと見るや機に乗じて襲いかかる、緩急を上手く使い分けるペースを、自然に身につけてきたようだ。

ワールドカップでは、コーペンに敗れはしたが、再びチャレンジする全英に寄せる期待は大きい。

kawasaki
河崎ラケット工業株式会社



選択の時代は終った!

kawasaki Badminton

数あるバドミントン・ラケットの中
カワサキ製品は
ひとり群を抜いた。永い独走が始まる。





グラファイトシリーズ
世界初のオールグラファイトラケット
エイトシックス
グラファイトフレーム　グラファイトシャフト
黒(ケース付)
フレーム価格12,000円


熱い視線を受けて……
All Carbon Tapered Shaft
S-81 CARBO DELUX 6
S-80 CARBO DELUX 5
カーボン時代のスターとして最も
注目を集めているラケット。
Slim Steel Tapered Shaft
S-78 SUPER RUSH II
S-76 SUPER RUSH
スリムテーパーシャフトが威力を
倍増させるラケット。
SunBatta®

YONEX®

ボディの美しさから出発した、主張のあるスポーツウエア。
単にかたちだけに流れず、単に機能だけに片よらない、新しい発想のスポーツウエアの誕生です。デザインは、あの三宅一生。このほかヨネックスには、オリジナルなスポーツウエアや、日本バドミントン協会推薦のスポーツウエアをずらりそろえています。

プレイヤーの声から、使いやすさをカタチにしたバッグ達。
ヨネックスのスポーツバッグの大特徴は、それぞれのデザインに、用途別にセブン・スリー・ワンと3種類あること。長期遠征用・短期遠征用・当日大会用と使いわけることができます。バッグにT.P.O.を持ちこむなんて、ヨネックスならではのアイデアとは思いませんか。ともかく、ヨネックスでかためると強い。

ヨネックスを着る。
ヨネックスを持つ。
勝てそうだぞ。

Flemming Delfs
フレミング・デルフス（デンマーク）



世界初のオールグラファイトラケット
エイトシックス

グラファイトフレーム・グラファイトシャフト/黒(ケース付)
フレーム価格12,000円　ガット張り上り価格12,900円(ロンシープ)



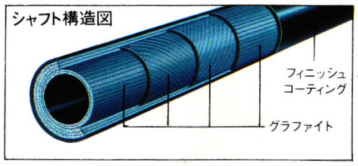
RACKET kawasaki
河崎ラケット工業株式会社

用により、ショット時のフレーム部のたわみが最適に作用し、たまもちが一段と良くなりました。これがスイートスポットの広がったと言われるところです。

打球をパワフルに——グラファイトシャフト

シャフト部は、グラファイトをタテ2層、左右ナナメに2層、計4層を組んで構成。(多重交差グラファイト)
多重に交差させることで、グラファイトの剛性を強力なバネに変えるので、エキサイトしたプレイ中に起きるラケットのねじれや、ぶれを最少限にとどめます。

エイトシックスを使うことにより、レシーブ能力、攻撃力とも更にアップし、いままでにない安定したプレイにつながります。



新鮮な打球感!

振動吸収力をアップ

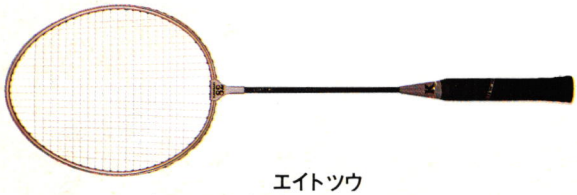
科学的な実験により、グラファイトの振動吸収性の良さは実証ずみ。エイトシックスの使用は、プレイ中の疲労度を軽減させます。

ラケットの強じん化

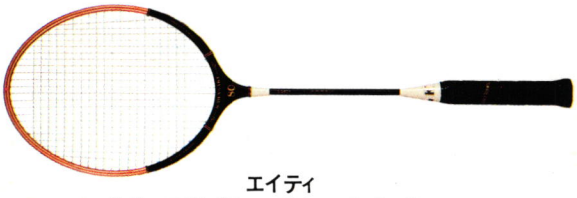
グラファイトの強じんさが、そのまま生かされているので、どんな強い振りに対しても、曲がり、ねじれの心配がありません。

新鮮な打球感

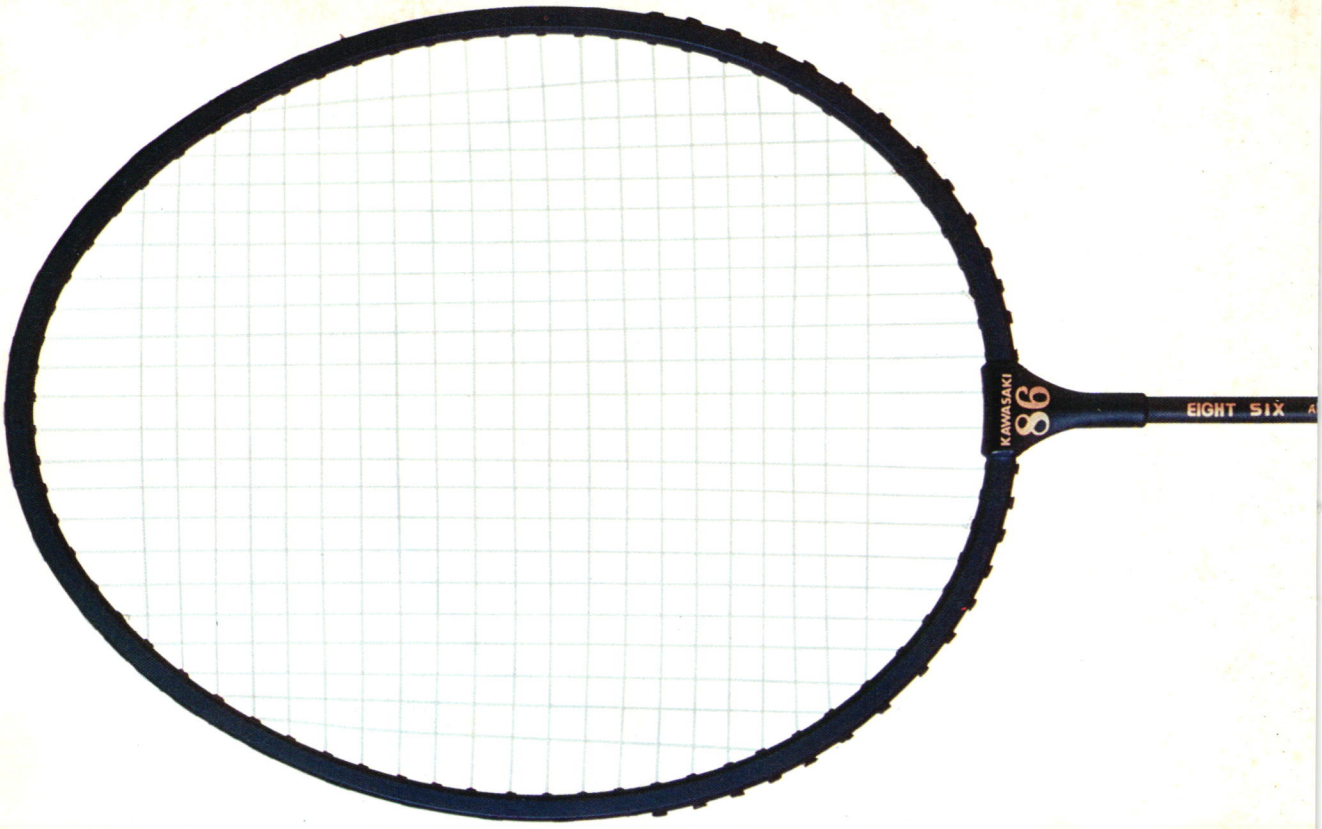
振動吸収性の良さ、しなり、たわみ具合の最適さなどが融合され、エイトシックスの打球感は全く新鮮なものになりました。新しい打球感の体験は、プレイに新しい発見をもたらします。



エイトツウ
シルバー(ケース付) グラファイトシャフト・アルミフレーム
フレーム価格8,000円 ガット張り上り価格8,900円



エイティ
黒(ケース付) グラファイトシャフト・ウッドフレーム
フレーム価格8,000円　ガット張り上り価格8,900円

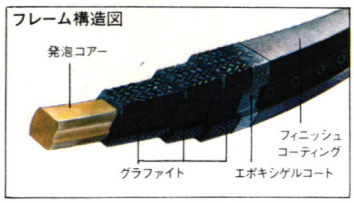


GRAPHITE

エイトシックス。このラケットの誕生は世界のバドミントン界に、ハリケーンを巻きおこし、カワサキの時代が到来したことを感じさせます。既に発売中のエイティ(B-80)・エイトツウ(B-82)は、100%グラファイトシャフト使用のラケットとして、その打球感の良さが一流プレーヤーの喝采を浴びました。
今、新登場のエイトシックスは、グラファイトを更にフレーム部にも採用。従来のグラファイトシャフトと一体となり、世界初のオールグラファイトラケットとして登場しました。他の新素材を使っただけのラケットと比較して、違いがはっきりわかるラケットの完成です。

しなやかな剛性 —— グラファイトフレーム

エイトシックスのフレーム部は、三層の編組グラファイト(数百万本のグラファイト繊維を編む)で構成され、表面はウレタンコーティングで手ざわりの良さ、仕上げの美しさなどが加わり高級感を出しています。



カワサキはなぜグラファイトを編むのか!

グラファイトの剛さと軽さは宇宙工学の分野の素材として使用されていることでも実証されています。
その剛さと軽さに、ラケットとして理想的なしなやかさをどう融合させるか——。
カワサキは独自の"編む"という技術によりグラファイトを、剛く、軽く、しかもしなやかな素材へと変革させました。
カワサキ技術陣の大きな功績です。

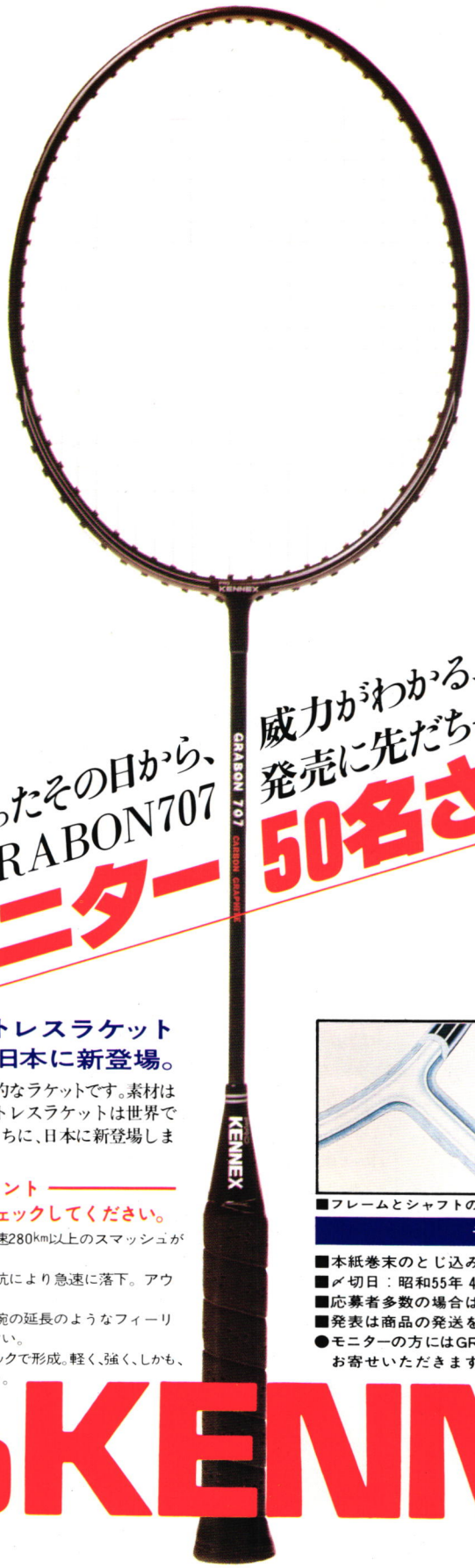
広くなったスイートスポット

エイトシックスは、編組グラファイトの使

kawasaki Badminton



グラファイトシリーズ



初めて使ったその日から、
GRABON707

威力がわかる、魅力がわかる。
発売に先だち——

モニター50名さま募集

世界で唯一のジョイントレスラケット

フレームとシャフトはつなぎめなし 日本に新登場。

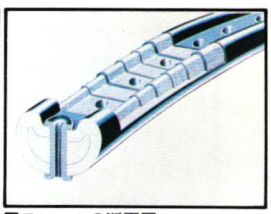
フレームとシャフトを一体成型した画期的なラケットです。素材はオールカーボングラファイト。ジョイントレスラケットは世界で唯一つ、Pro Kennex だけ。注目のうちに、日本に新登場しました。

ここが自信のポイント

さあ「GRABON707」を徹底的にチェックしてください。

- ■強く、スピードのあるショットが可能。時速280km以上のスマッシュが打てる。（当社試打記録）
- ■弾性があり、打球は初速がはやく、空気抵抗により急速に落下。アウトになる打球が少ない。
- ■打球の感触がストレートに手に伝わる。腕の延長のようなフィーリングでショットでき、コントロールしやすい。
- ■オールカーボン素材の内側を特殊プラスチックで形成。軽く、強く、しかも、振動を100%吸収するので腕やヒジを守る。
- ■従来のラケットがもっていたジョイント部分のもろさやシャフトのねじれを解消した。

■フレームとシャフトの内部構造



■フレームの断面図

モニター応募要項

- ■本紙巻末のとじ込みの申込用ハガキでご応募ください。
- ■〆切日：昭和55年4月10日（当日消印有効）
- ■応募者多数の場合は抽選で50名さまを選ばせていただきます。
- ■発表は商品の発送をもって発表にかえさせていただきます。
- ●モニターの方にはGRABON707をご使用のうえご感想を当社へお寄せいただきます。

PRO KENNEX

GOSEN



WW-06
トレーナー〈サクセス〉
¥9,800

WD-13
ドレス〈ロンダ〉
¥8,200

WW-04
ウォームアップジャケット
〈ウイナー〉
¥12,600



WD-05
ドレス〈ロンドニーナ〉
¥9,300



WT-02
シャツ〈ホバート〉
¥7,200

WP-04
ショートパンツ
¥4,400



WT-01
シャツ〈ロレーヌ〉
¥5,300

WS-01
スコート〈ロレーヌ〉
¥5,700



WW-08
トレーナー〈グレイト〉
¥6,000

WP-26
ウォームアップパンツ
¥8,600

足音は、もう春。



WT-03
シャツ
〈セレーナ〉
¥4,800

WP-03
ホットパンツ
¥4,200



WT-05
シャツ
〈ローズウェル〉
¥2,800

WS-03
スコート
〈ピコット〉
¥5,500

Winter
SPORTS WEAR DESIGNED BY GOSEN

おしゃれな人は、季節感をキャッチするアンテナも鋭い！ハートが若い証拠です。このような人のためのウインテックスウエア。やっぱり動いているときが美しく決まります。頑固なまでに機能性を生かしながら、このファッション感覚。中でも特にこの季節に似合うのが水玉。フレッシュ！なのです。カラーもショアピンク、サンダンスイエロー、シャーベットの3色。コートではいちだんと映えますよ。他にもダイナミックカラーのウエアも豊富に揃っています。

GOSEN

本　　社●〒540 大阪市東区豊後町4　☎ (06)942-5816(代)
東京支店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2 ☎ (03)862-6576(代)
福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8 ☎ (092)712-5247(代)
北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22 ☎ (0762)47-0200(代)

例 The players shall change ends at the commencement of the second game and also of the third game (if any) …(後略)「プレーヤーは第2ゲーム、および必要な場合は第3ゲームの各開始にあたって、エンドを交換する」(IBF競技規則から)

チェンジ・エンドも〝日本語〟。英語で「エンドの交換」という名詞として使う場合は、本項の表題のように「チェンジ・オブ・エンズ」といわねばならない。また、動詞として使い「エンドを交換しなさい」というように使う場合も「チェンジ・エンズ」と、どちらにしても、エンドを複数のエンズ(ends)にすることが必要である。

参 change trains(汽車を乗り換える) change seats with her(彼女と席を交換する)。trains, seatsといずれも複数、こっちの汽車とあっちの汽車、この席とあの席、のように、交換には必ず二つが関係するため。

☞ end(エンド)

chassé シャセ。バドミントンのフットワークの1種で、主として左右への横移動のさいに使われる、速いすり足。ふつうの歩行(または走)では、前足(先足)を後足が追い越す形で移動が進み、つねに両足が交差し、交互に前に出る。しかし、シャセでは、あとから出す足は、先足に追いつくだけで、追い越さない。すなわち、右へ移動する場合なら、まず右足が右へ1歩動く、次に左足がそれを追い、右足左隣へつけるように移動する。2歩目、3歩目…も同じことを繰り返す。

もともとは、フランス語から借用したダンス・ステップの呼称であり、フィギュアスケートのアイスダンスでも、専門技術の一つとして使われている。

circuit training サーキット・トレーニング。サーキットは『巡回(特定地域をぐるっとひと回りする)とか、回路』というような意味で、テニス、ゴルフのプロ興行を指す言葉としても使われている

サーキット・トレーニングは、基本的な体力、運動能力を高めるためのトレーニング法の一種。短い時間で身体各部の筋力を強化し、心肺機能や運動効率の向上をねらったもので、いくつかの異った運動を1セットとして、これを特定の順序に従い、連続して行う(必要に応じてセットを何度も繰り返すことから名付けられた)。

competition コンペティション。compete(競争する)の名詞形で、一般的な意味で競争や競り合いを、スポーツ的には試合、競技会を意味し、日本語の〝種目〟に当たる言葉の代名詞としても使われる。

例 In women's singles competition, all seeded players advanced to the quarterfinals.(女子シングルスではシード選手がそろって準々決勝に進んだ)

〝試合〟に相当する英語には、だれでも知っている単語のマッチ(match)があるが、マッチが競技会を指す時は、原則として単一の対戦カードからなるもの(たとえば全日本×英国のラグビー)を意味し、バドミントンの大会のように、複数の試合から成るものはcompetitionを使うのが普通。もちろん、マッチは対戦カード一つ一つのことも指すから、三つの対戦カード(3試合)という場合はthree matchesと、複数にしなければならない。

参 コンペティションの派生語にはcompetitor(コンペティター=競技者、競技会への参加者)competitive(コンペティティブ=形容詞で、競争の、競技の)などがある。

condition コンディション。一般的には条件、状態(たとえばweather condition=お天気ぐあい。court condition=コート・コンディション)または健康状態のこと。しかし、スポーツでは、もっと焦点をしぼったphysical condition(フィジカル・コンディション=体調、調子)を指す。また、試合などのために体調を整えることをconditiooning(コンディショニング)などといっている。

ただし、調子のいい、悪いを表わす言葉として、コンディションは、それほど一般的ではない。むしろ、フォームとかシェープ(form, shape)が使われることが多い。

例 Apparently Miss Yuki was not in top form.(湯木選手は明らかに最高の調子ではなかった)

costume コスチューム(アメリカ英語ではカスチューム)。一般的には服装、または婦人服などの意。日本ではスポーツウエアの代名詞として使うことが多い。しかし、この語は元来は〝時代、地方に独特の服装様式〟を意味し、したがって、cstume play(コスチューム・プレイ)というと〝時代劇〟のことになる。

英語でスポーツウエアのことは、ごく平凡にclothing(クローズィング=衣服)という場合が多いようだ。

例 "……only white clothing should be worn on court".(Progressive Badminton)「コートで着るのは白に限るべきだ」"Dvote the rest of the family fortune to clothing".(Badminton is Fun)「ふところ具合が許す限り、お金をウエアに割きなさい」

☞ wear(ウエア)

count カウント。動詞で「数をかぞえる」、名詞では「計算」の意。バドミントンのような競技では「ポイントをかぞえる(こと)」。野球ではボールとストライクの数を、ボクシングでは相手をノックダウンしてからノックアウトの判定がくだるまでの間、1, 2, 3 ……と10までかぞえることをいう。

参 ロケット発射の秒読みや、オリンピックまで、あと何日、というようなことを数えるのはcount down(カウントダウン)という。商店のカウンター(counter=勘定台)も、お金をかぞえるところから出た言葉。

〈Cの部つづく〉

バドミントンの用語ABC

後藤忠弘／編

Cの項　つづき

career　カリーア。日本語で〝キャリア〟と呼びならわしている。たとえば「キャリアにまさるA選手が順当勝ちした」など。しかし、この意味を英語で表現したい時は、リにアクセントを置いて〝カリーア〟と発音しなければならない。キャリア（キャにアクセントがある）というとcarrierと間違われる。こちらの方は運ぶ人、運ぶもの、が本来の意味で、文意によっては、伝書鳩、航空母艦（飛行機を運ぶから）保菌者、等の意味になる。

日本語でキャリアといっているカリーアは、一般に職業上の経歴を指し、スポーツで使う場合も、長期にわたって専念している競技についての経歴を意味する。「キャリアにまさる選手が…」というような場合のキャリアは〝経験〟に近い意味になる。

例　He has a career as an Olympic athlete.（彼はオリンピックに出たことがある）

もっとも、career, carrier, car（車）はすべて同じ語源から出た言葉である。

center　センター。真ん中、ものごとの中心、というのが原義。スポーツでは野球のセンター・フィルダー（中堅手）やバスケットのセンター、サッカー、アイスホッケーのセンター・フォワード、などに、その意味が示されている。

バドミントン・コートの〝どまんなか〟もcenter of the courtだが、コートを①ネット寄り②中央部分③一番奥の部分、に分けて考えた場合、②の真ん中の部分はミッドコート（midcourt）と称する。もし、センターコートといった場合は、いくつもあるコートの中のメイン（主要な）コートを指すことになる。なお、上記の①はフォアコート（fore-court）③はバックコート（backcourt）である。

例　Women's singles final will be played at the center court from 3 p.m. Sunday.（女子単決勝は日曜午後三時からセンターコートで行われる）

バドミントン・コートにはセンター・ライン（center line）がある。これは、サービス・コートを縦に二分し、ショートサービス・ラインから、ロングサービス・ラインまで、サイドラインに平行して引かれた線のこと。ダブルスの試合では、相手側が平行陣型（サイド・バイ・サイド）になったとき、このセンター・ラインを攻めると、コンビを崩すのに効果がある。

champion　チャンピオン。だれでも知っている言葉で、the U.S. national champion（全米選手権者）などと使われる。しかし、この語の持つ意味は幅広く、いわゆる選手権（championship）をかけた試合の勝者のことだけを指すわけではない。Webster's Sports Dictionary（既出）では「トーナメント、リーグ戦、挑戦試合、王座戦などの優勝者、第1位者」と説明している。

アメリカ英語の俗語でチャンプ（champ）というのは、チャンピオンを略した形。前回の優勝者であり、今回はそのタイトルを防衛する立場で競技会に参加している選手のことは、ディフェンディング・チャンピオン（defending-champion）と呼ぶ。

一方、ごく手近かにある英英同意語辞典などを引いてみると、チャンピオンの同意語には「hero, Victor, winner」（英雄、勝利者）などがあげられている。たとえばHe is a championといえば、必ずしも大会の優勝者ではなく「あいつは、すごいよ」くらいの意である。

championship　チャンピオンシップ。ふつう選手権と訳しているが、これには、①チャンピオンの保持するタイトル②チャンピオンを決めるべき競技会（試合）という二つの意味がある。

しかし、いずれにしても、単語としてのchampionshipは単数。したがって、その競技会にかけられたタイトル（優勝を決める種目数）が二つ以上あれば、当然、複数形で表現することが必要になる。たとえば、バドミントンには男子シングルス、同ダブルス、女子シングルス、同ダブルス、混合ダブルスという五つの種目がある。それゆえ、これら複数の種目を実施する競技会の場合は、The All-Japan championshipsのように複数形で書かなければならない。

例　The Ladies International Badminton championship For the Uber Cup（ユーバー杯争奪女子国際選手権試合＝ユ杯の正式名称）かけられたタイトルはひとつなので、championshipと単数で表記されている。

なお、The Illustrated Handbook of Sports Terms; Hampton House,1978（図解入りスポーツ用語ハンドブック）は、チャンピオンシップを陸上競技の項目の中で「地域、全国、または国際連盟等の認可の下に行われた競技会」と定義している。

change-of-ends　チェンジ・オブ・エンズ。いわゆるチェンジ・エンドのこと。エンド（end）は、各一方のプレーヤー、組、またはチームが、プレー中に専有しているプレー区域のこと。バドミントンの場合、具体的には、コートの、ネットで区切られた半分のどちらかの側を指すことになる。ただし、コートそのものは、物理的な、動かない存在であり、エンドは、特定の時点でどちらかのプレーヤーがプレーをしている区域（コートはプレーヤーがいなくても、コートであることに変わりない。しかし、エンドの概念は、プレーヤーがコート上にいなければ成立しない）であるから、正しくは、区別して考えなければならない。

したがって、チェンジ・エンズのことを、チェンジ・コート（またはコート・チェンジ）というのは和製英語で間違い。〝コートを変える〟といえば、①コート面を別のものと取り替える（新しくする、修復する）か②プレー場所を移す（Aコートから Bコートへ）というようにとられかねない。





人数は多く、会費は安く、技術は高く

★有秋台バドミントン協会







われわれのクラブは、昨年末五回目の結成記念大会を行った。

市原市の南の端、国鉄姉ヶ崎駅から車で十分の丘陵地に人口約一万人のベッドタウンがある。京葉コンビナート姉ヶ崎地区の企業に勤務する働き蜂の憩の場所である。地元の人の話によれば、団地が建つ前は、まむしの丘と恐れられ滅多に人が寄りつかなかったそんな片田舎が、今では想像もつかない地名通りの近代的なタウン有秋台に生まれ変った。

昭和四十九年九月一組の夫婦の呼びかけで数人の初心者とともに名もないクラブが、団地内の小学校の体育館をホームコートとして誕生した。生みの親は情熱的で、日を経ずしてクラブ員は、会社員と主婦の四十名に達した。しかし経済力はなく、コート不足に悩まされていた。小学校の体育館にはポスト二本とネットが一張りあっただけでラインはなかった。夫婦の課題はコート三面を設置することであった。

有秋台バドミントン協会が誕生したのは、昭和四十九年十二月、第一回目の大会の後であった。会員が四十八名、大会に参加しなかったのは、勤務やケガでゲームができない僅か四名であって、大会終了後の親睦会には、全員が参加した。これはいまだに破られてい

ない大記録である。大会はA・B・Cの三部に分け、会長の寄付で揃った三面の真新らしいコートの中で、これも会長寄付のA・B・C三種類のトロフィーを争奪した。一組の夫婦によってうぶ声をあげ、理解ある育ての親に経済援助をしてもらい、自分達で命名したのが知る人ぞ知る有秋台バドミントン協会である。

昭和四十九年以後の日本経済は低成長期である。

それまで認められていた夜間照明が使えなくなった。これは大打撃であった。発足当初週二回だった夜間の練習を止むを得ず土曜日の夕方三時間、日曜日の午前中の三時間に変更した。スポーツを生活の中にと考え実行していた連中のうち男子二十名は退会してしまった。以来わがクラブの活動時間は、表向きは、原則としてこの時間帯となった。

多くの他のクラブと異なって、わが協会の運営方針と実際の活動は、生みの親の独断に近い方法で行われている。

バドミントンを通して会員の親睦と体力の増進または減退防止を目標として、各種の行事を行うのは他のクラブと同様である。

違うところは「安い費用で、多くの人が」の精神と、何より技術の向上を目指していることである。シャトルが値上がりすると聞けば、余裕のないのに無理して、年間使用量の、三割から五割に当る百ダースを先買いしたり、個人的に、千葉では有名なプレーヤーを招いたりして会の予算を節約している。この様に一組の夫婦の献身的と言えるバドミントンと会発展に対する情熱が効を奏して、登録会員数は、他に類を見ないと思われる九十余名に達したのである。

わがクラブが安い会費—月五百円で活動でき、また婦人が急速に実力をつけたもう一つの要因は、企業の体育館が使わせて貰えるからである。

昭和五十年四月から、女性会員のほとんどが、月・火・木の週三回、二時間半の練習を重ねた結果、結成後わずか二年目にして、関東家庭婦人Cクラスで優勝し、その勢に乗じて、昭和五十三年六月には、関東家庭婦人、十一月には全日本家庭婦人クラブ対抗試合のAクラスで優勝した。

六名中四名は、昭和五十年に、はじめてラケットを握った全く初心の三十歳代の家庭婦人である。

企業の体育館が無料で使える利点をフルに活用した結果とありがたく思い、感謝の気持を忘れずに練習に励んでいる。

女性の長足の進歩に比較して、いつも話題にのぼるのが、男性の成績である。せいぜい市原市民大会の新人単複で優勝するのが、最高である。しかし負け惜しみではないが、クラブ対抗男子三十五歳以上の三複団体戦では、例え全国大会でも優勝できる自信はある。多くの団体からの挑戦をお待ちしています。

女性の上位は、ことバドの成績のみに止まらない。内証の話、享主が汗水流して働いている間に、メンタルハーモニーだとか何とか理由をつけて、アルコールを傾けた成果があって忘年会でのアルコール消費量は年ごとに激増。しかしこれも手造りのうまい料理を食べさせられた後では手遅れ。「バドが強くなるにはまずアルコールを征服しなければ」の合言葉でますます調子づく。男性群は小さくなって、呆れる今日この頃のわがクラブである。

さて、わがクラブのもう一つの特徴でありモットーにしている理念に、「バドは羽根つき」の一般の認識を打破し、「バドほど面白く、体力・精神力・頭脳が要求されるスポーツは、ほかに少ない」の世の中への宣伝がある。例年小学生を対象に、十日間の教室を開いている。第一回目の受講生が今年高校二年生となる。バド部に籍を置いている者がいるかも知れない。しかしそんな事はどうでもいい。バドミントンの面白さと厳しさが理解して貰えるよう、今年も実施する予定である。

この様に永年播き続けている活動の成果が実を結び、PTAのスポーツにもバドが取り入れられ、そこで物足りなくなったママさんがわがクラブに入会する。勤めの関係で転居した会員の後を継ぐ人材の銀行となっている。

一組の情熱に燃える夫婦の播いた種が、山口県はじめ各地で活躍しようとしているし、わがクラブの中にも続々と二代、三代目の情熱夫婦が誕生しつつある。

今後とも、バドを通して同地域に住む人達に限らず、広範囲の人達と勉強・交流を重ね健康で明るい人生を送る為の活動を続けるのが、有秋台バドミントン協会であります。

どうか多数の皆様のご指導・ご支援の程をよろしくお願いします。

（連絡先）〒299—01
市原市有秋台西二—四—一
三井西社宅C 37—303
村田英臣（電話 0436—66—4464）

特派員だより

第26回近畿高等学校選手権大会

四条畷、連勝記録を更新

男子・山本も
実力を発揮

第26回近畿高等学校バドミントン選手権大会は、11月23日から3日間、京都市体育館、洛星高校体育館にて行われた。

男子は比叡山高校の山本が単複に活躍し優勝。女子は四条畷学園高校が、単複とも征覇。連勝記録を「9」と更新した。

▼男子シングルス準々決勝

古賀（正強） 2—0 竹端（比叡山）
松浦（草津） 2—0 貴田（正強）
武村（正強） 2—0 田辺（比叡山）
山本（比叡山） 2—0 早水（茨木工）

▼同準決勝

古賀 2
（18—13 7—15 15—10）
1 松浦

山本 2
（15—2 15—5 11—15）
1 武村

▼同決勝

山本 2
（15—9 5—15 15—6）
1 古賀

▼男子ダブルス準々決勝

山本・馬杉（比叡山） 2—0 中井・塩田（石山）
古賀・武村（正強） 2—0 仁田・河内（柏原）
竹端・西山（比叡山） 2—0 石原・鳩津（洛星）
中村・菊地（奈良一条） 2—1 川居・佐藤（正強）

▼同準決勝

山本・馬杉 2
（18—13 15—10）
0 古賀・武村

竹端・西山 2
（15—9 18—16）
0 中村・菊地

▼同決勝

山本・馬杉 2
（15—9 17—14）
0 竹端・西山

▼女子シングルス準々決勝

尾崎（四条畷） 2—0 平山（比叡山）
尾崎（奈良一条） 2—0 谷沢（園田）
新木（四条畷） 2—0 山田（成安女）
松田（四条畷） 2—0 石橋（帝塚山）

▼同準決勝

尾崎 2
（11—6 11—2）
0 尾崎（奈良一条）

松田 2
（11—8 11—6）
0 新木

▼同決勝

尾崎 2
（11—3 12—11 11—7）
1 松田

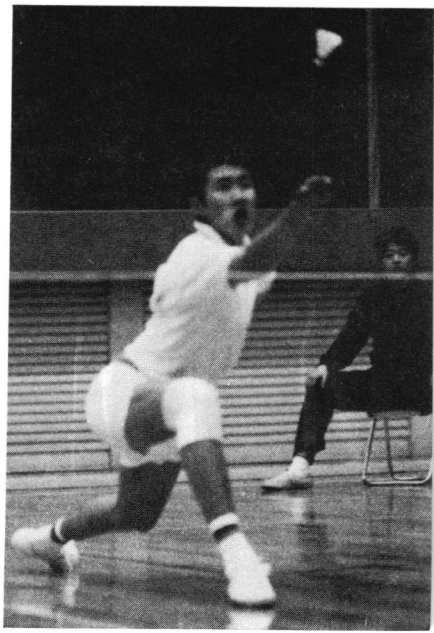
▼女子ダブルス準々決勝

河原・加藤（園田） 2—0 杉岡・大野（帝塚山）
松田・新木（四条畷） 2—0 尾崎・小林（奈良一条）
水上・丸山（武庫川） 2—0 吉田・山極（比叡山）
石橋・尾崎（帝塚山） 2—1 阿部茂・阿部正（園田）

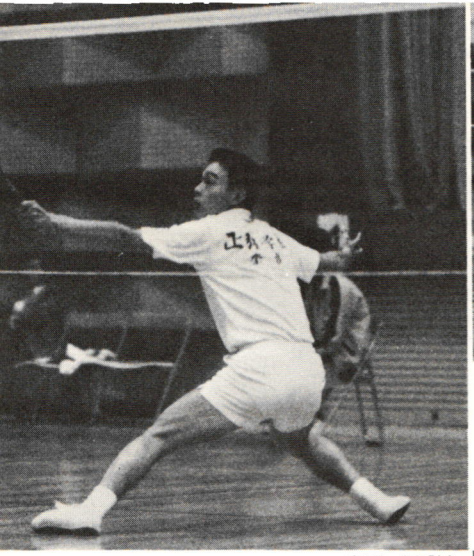
▼同準決勝

松田・新木 2
（15—5 15—4）
0 河原・加藤





松浦（草津）
佐藤（正強）



貴田（正強）



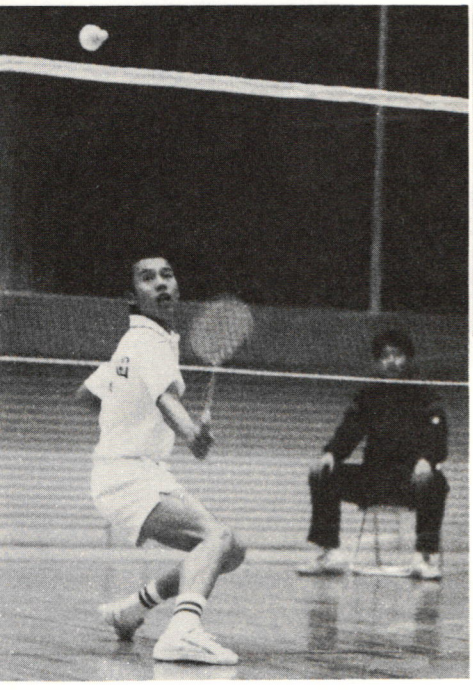
武村（正強）



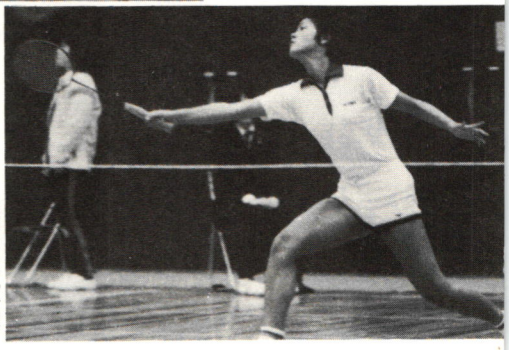
山本（比叡山）



上位入賞の各選手



古賀（正強）



尾崎（帝塚山）

石橋・尾崎　2（15—15　15—7　2）0　水上・丸山

▼同決勝

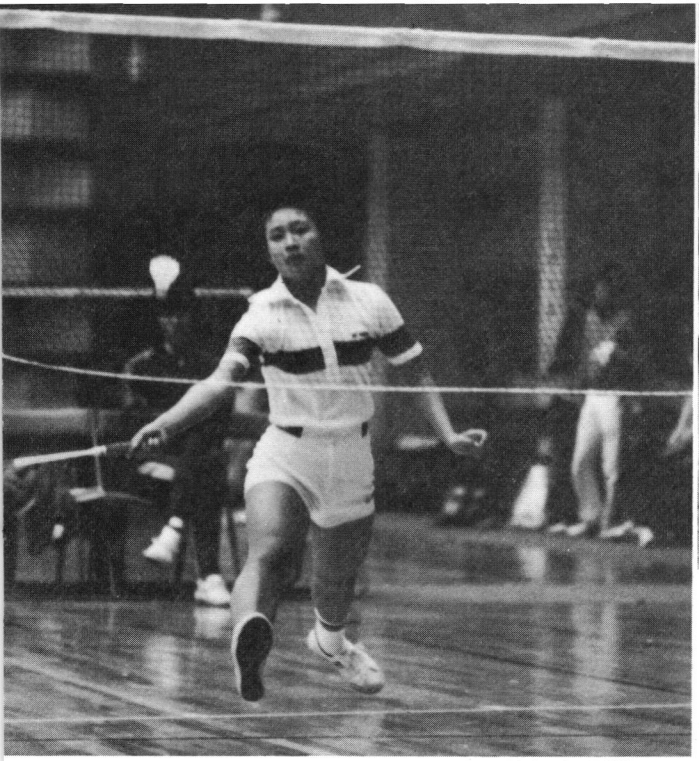
松田・新木　2（15—1　12—15　15—3）1　石橋・尾崎

◇**戦評**

男子シングルスの決勝は、昨年度準優勝の古賀と、山本の対戦となった。戦前の予想では、古賀有利の声が高かったが、1ゲーム目から闘志むき出しの山本は、巧みにハイクリア、ドリブンクリアを使い分け、決め球には鋭角のスマッシュでコーナーをつき、1ゲームを先取。一方、2ゲーム目に入ってからやや落ちつきを取りもどした古賀は、強気に攻め、タイ。ファイナルゲームは、やや息切れぎみの古賀に対し、山本は10—1と引き離し後半古賀の追い上げもすでに時遅く、15—9と山本が優勝を決めた。

準決勝で古賀と対戦した松浦は、敗れはしたものの、一年生ながら183cmの長身を生かし、破壊力のあるスマッシュで再三古賀を苦しめた。ファイナルゲームの中盤あたりでケイレンを起こし、棄権するかと思われたが、最後までシャトルに食いつき、根性を見せた。来年が楽しみな存在である。

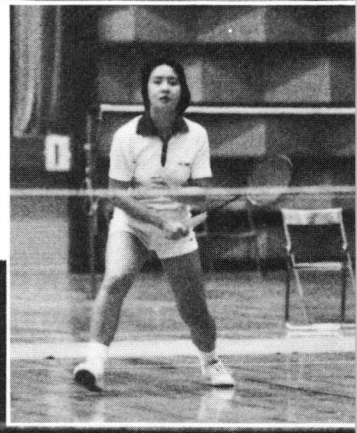
男子ダブルスの決勝は、比叡山同志の対戦となった。1ゲーム目は1点を競うシーソーゲームとなり、セッティングで辛くも山本・馬杉組が先取。2ゲーム目に入ると決め球のない竹端・西山組は、どうしてもレシーブにまわされる。結局攻撃力にまさる山本・馬杉



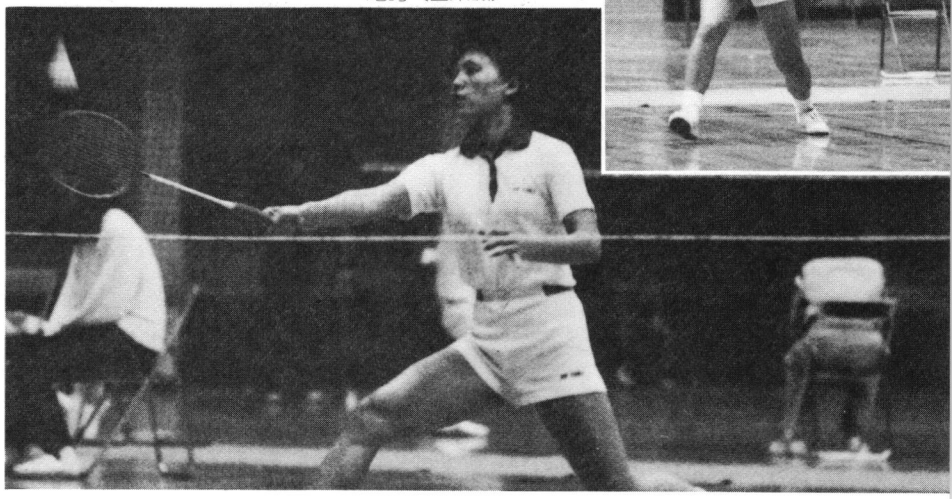
荒木（四条畷）



松田（四条畷）



石橋（帝塚山）



尾崎（四条畷）

シングルス決勝も四条畷同士。緊迫感に欠ける内容で興味が半減された。尾崎はシングルスのみのエントリーとあり、松田にファイナルゲームを許したものの、貫録勝ちといったところ。

ダブルスは、古豪四条畷の松田・新木組と新鋭帝塚山の石橋・尾崎組で決勝が行われた。1ゲーム目、松田は一年生の新木をうまくリードレ、浮き足立った石橋・尾崎組を15—3と圧倒。2ゲーム目は、落ちつきをとりもどした石橋・尾崎組の歯車がうまく噛みあい、勝負はファイナルゲームに持ち込まれた。期待に反しファイナルゲームは一方的。新木を前衛に置き、松田が強打で攻め、あっけない幕切れ。やはり伝統の強さであろうか……。

全般的に、男子はもっと粘りのあるプレーを身につけてほしいと痛感。比叡山、正強などはバドミントンの名門校。今年も是非インターハイで上位に食い込んでほしいものである。

女子ば、インターハイでも連勝を続ける古豪、四条畷に追いつけ、追い越せの精神で毎日の練習に励んでほしい。四条畷の片岡監督の口癖ではないが、「うまい選手より、強い選手」これが私たちのめざすところであると思う。

余談になるが、大会中、再三「応援は拍手だけに願います」のアナウンスがあったが、バドミントンの盛んなインドネシアでは、歓声がすごいと聞いている。お国柄とは言え、日本の静かなバドミントンも改善されてもいいのではないかと思った次第である。

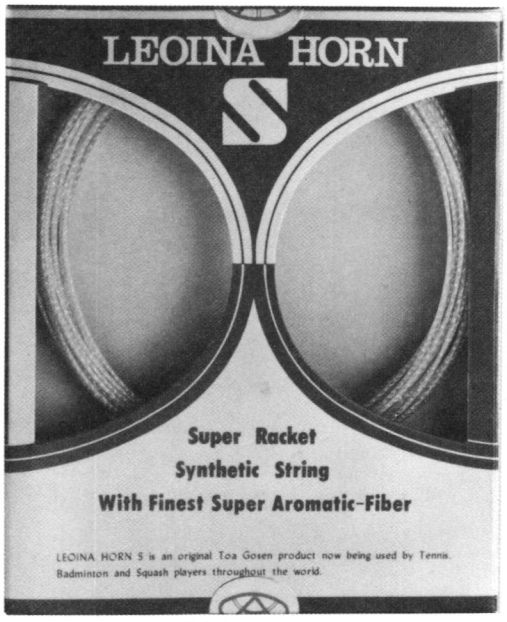
（大阪特派員・津村正道、写真・川崎光典）

組に栄冠は輝いた。

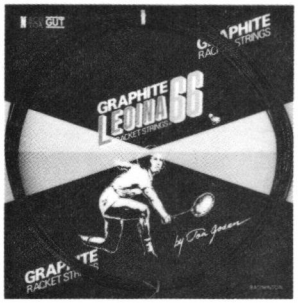
女子は、過去シングルス、ダブルスともに8連覇と、圧倒的な強さを誇る四条畷がどのような戦いぶりをみせるか興味がもたれた。しかし今年はインターハイチャンピオンの北田のような大物選手はおらず、他校のチャンスは大いにあると思われた。結局蓋をあけてみれば、四条畷の単複優勝、記録更新と、悪く言えば「おきまりのコース」。



世界のトーアが贈る
バドミントンガットシリーズ



レオイナ　ホーン
LEOINA HORN S



グラファイト　レオイナ
GRAPHITE LEOINA 66



レオイナ　シープ
LEOINA SHEEP 66



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

東亜合繊株式会社

〒658 神戸市東灘区本山中町4丁目7番5号
電話 神戸 078 (441) 2001(代)～5番

As well as screening five programmes giving advice to beginners and tactical tips for the more advanced, the BBC will record the game's history and show players in costumes of the 1870s in Badminton House, Gloucestershire, where it all started. The series, on BBC2, starts on November 23.

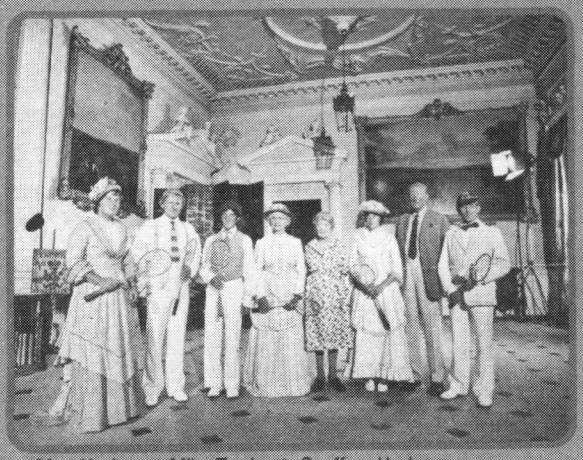


Mrs. Godfree, the Duke of Beaufort and Mrs. Judy Hashman.

A five-year-old badminton egg is being hatched on the eighth floor of a building rooted directly into Ealing Broadway Underground Station. There, in BBC's Villiers House offices, the finishing touches are being lavished on the first-ever badminton series, "Better Badminton".

The five, 25-minute programmes start on BBC 2 on Friday, November 23 at 6.55 pm. It is hoped to repeat them, on BBC 1, in January. The man behind the project is BBC producer, Bernard Adams.

Continued on Page 31



Mrs. Hashman, Mike Tredgett, Geoffrey Hashman, Mrs. Godfree, the Duchess of Beaufort, Mrs. Cathy Tredgett, the Duke of Beaufort and county coach Ray Major face the camera.



Rackets at the ready — Mrs. Hashman, Ray Major, Mrs. Godfree, Mrs Tredgett, Geoffrey Hashman and Mike Tredgett (Pictures: Radio Times).

ベター・バドミントン テレビがお手本

イーリング・ブロードウェイ地下鉄駅にじかに通ずるあるビルの8階で、5年ごしのバドミントンの卵がかえろうとしていた。

BBCのヴィリヤーズ・ハウス局で初めての試み「ベター・バドミントン」の仕上げが行われていたのである。

25分間のプログラムが5回、11月23日午後6時55分からBBCの第2チャンネルで放映された。

1月には第1チャンネルでの再放送もあるはずだ。

このプロジェクトの仕掛人はBBCのプロデューサー、バーナード・アダムス。語学やドキュメンタリ番組を担当者として実績のある彼がなぜバドミントンを?

5年も計画を暖めていたのはなぜか?

学生時代、バドミントンの虫にとりつかれた彼は不屈のマレーシア人オングとプレーができた。



Mrs. Godfree (nee Kitty McKane), now 82, playing in the marble-floored hall of Badminton House in period costum

◆写真説明◆

ゴッドフリー夫人（旧姓キティ・マッケイン）82歳、バドミントン・ハウスの大理石張りの広間で、当時の衣裳プレー（写真左ページ）

左からゴッドフリー夫人、ビューフォート公爵、ジュディ・ハッシュマン夫人（写真右ページ左側）

左からハッシュマン夫人、マイク・トレジエット、ジオフリー・ハッシュマン、ゴッドフリー夫人、ビューフォート公爵夫人、キャシー・トレジエット夫人、ビューフォート公爵、郡コーチのレイ・メジャー（写真右ページ右側上）

ラケットをかまえて――左からハッシュマン夫人、レイ・メジャー、ゴッドフリー夫人、トレジエット夫人、ジオフリー・ハッシュマン、マイク・トレジエット（写真右ページ右側下）

アイルランドからロンドンに来てからは、BBCの隣のコートでお昼休みにスカッシュを楽しむ方に変った。

一年前、アダムスのバドミントンの企画に「ゴー」が出た。バドミントンにお偉方が難色を示していたのではなく、スポーツが多く、ただ順番を待っていただけである。

公式発表によると、この番組は初心者に助言を、もっと進んだプレーヤーには技術上のコツを与えるという主旨だそうだ。

トップ・プレーヤーが何人か実技を見せ、練習方法とか競技の歴史も紹介される。

ハーバート・シーレが競技の起源を語り、イアン・マコナキーはその特色と面白みを語る。

"ベティ・ユーバーの「昔と今と」、ジュディ・ハッシュマンの彼女の時代の話も聞かれる。

ビューフォート公爵のバドミントン・ホールの大理石の床では、当時の服装でその発祥の時代が再現される。

出演のジュディやキャシー・トレジエットは、一九二〇―二二年の全英シングルス、一九二四年、二六年のウィンブルドン・テニスのタイトルを取った82歳のゴットフリー夫人（旧姓キティ・マッケイン）と対談する。

彼女はウィンブルドン混合ダブルスで夫と組んで優勝したただ一人の女性でもある。

ジュディ・ハッシュマンの父フランク・デブリンは、「過去の名選手たち」を語る。

また国際色を出すために世界チャンピオン、フレミング・デルフスがヨーロッパの立場を語る。

コートはウィンブルドンでもウェンブレーでもなく、オズウエストリーが選ばれ、協会のコーチ、ジェイク・ダウニーが指導し、レイ・スティーブンス、ノラ・ペリーなどのプレーヤーが応援する。

（〝バドミントン〟11月号から）

◆わが国でもNHKでは、スポーツ教室のシリーズで、バドミントンも取り上げられているが、このBBCのような形式で、日本伝来から順を追って紹介したらどうだろうか？



by Miwako Wakazono & Carolyn Nakamura

Unseasonably warm weather prevailed from last December but old man winter finally came calling in the middle of January. Ski grounds in various parts of the country delightedly reported snow two to three meters deep.

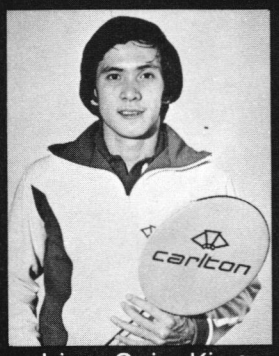
The Badminton-Nippon-League tounament, which attracted much attention because it was the first of its kind, was won by the men from Yonex and the women from Suntory. Yonex, led by Toganoo and with Iino, Tsuji, Ohba, and Hasegawa right behind him, won a complete victory, as did Suntory, with Uber Cup representatives Tokuda and Takada taking leading parts. Teams representing many companies were sent to this tournament and the enthusiasm of the employees who filled the gymnasium to cheer on their respective company's team reached a feverish pitch.

Then it was on to Kyoto where the "World Cup '80" was held from January 18 – 20. The results of the tournament were the same as last year. Liem Swie King (Indonesia) took the men's singles and literally lived up to his name as the King. Lene Köppen (Denmark), now in her best condition and performing so elegantly and gracefully on the court, won the women's singles for the second consecutive year. Christian and Chandra (Indonesia) won the men's doubles and the women's trophy went to Yonekura and Tokuda (Japan).

Without a doubt, the men from Indonesia are powerful and it seems that Liem Swie King has physically grown even larger. His offense as well as his defense are strong and it doesn't look as if anyone will be able to beat him for some time to come. We are interested to see how close he can come to Rudy Hartono's record.

The All-England Championships will be held in a little over a month. With this in mind, the Japanese players are in training now. They weren't able to bring home any titles last year, so it's a matter of, "We'll do it this year!"

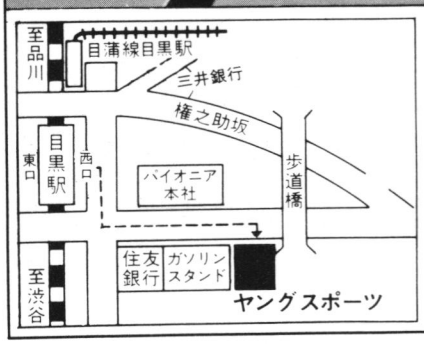
Well, that's all for now. More next month!



Liem Swie King
1978年度全英選手権
男子シングル優勝

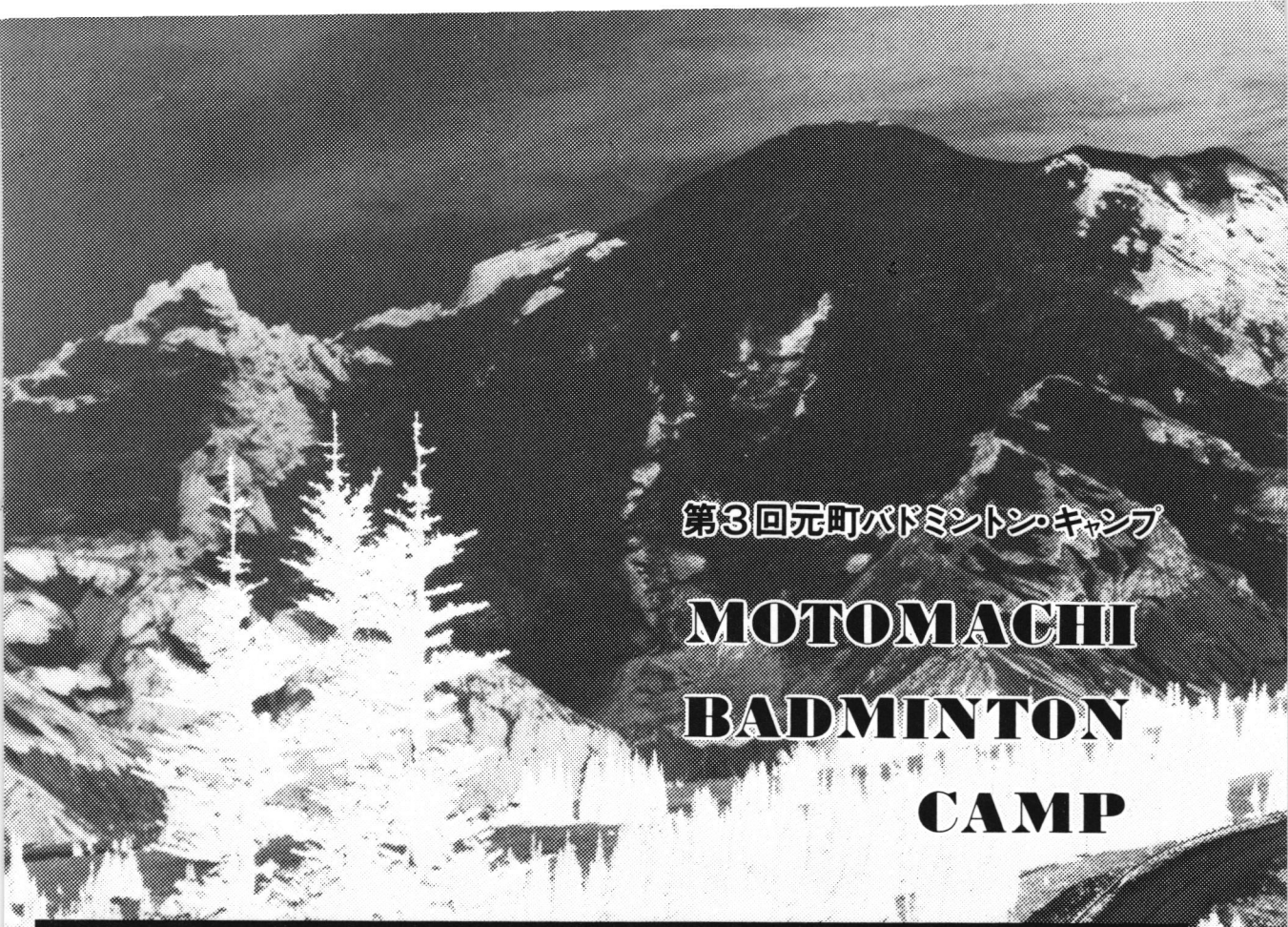
大量入荷!!

'79バドミントンラケットは カールトンだ!!



ヤングスポーツ

〒153 東京都目黒区目黒1-3-16 目黒駅西口1分 ☎491-7822



第3回元町バドミントン・キャンプ

MOTOMACHI BADMINTON CAMP

主　催　ラケットショップ元町
協　賛　カワサキ、ヨネックス、サンバタ、ゴーセン
参加費　28,000円
場　所　群馬県吾妻郡嬬恋村大字千俣611
　　ヤマタ・ホステル
　　☎02799-6-0101
宿　舎　同　上
期　日　昭和55年3月20日㈭、21㈮、22㈯、23日㈰
集合場所　昭和55年3月20日(木)　午前9:30集合
　　午前10:00出発
　　横浜駅西口天理ビル裏
交通機関　バス（横浜旅行サービス）
募集人員　50名（18歳以上）
申込締切　昭和55年3月15日(土)（ただし定員になりしだい締め切らせていただきます）
申込方法　所定の申込用紙に必要事項を明記のうえ、参加費を添えて、直接お申し込みください。また現金書留によるお申込みも受け付けます。なお、申込用紙は右記の各店に用意しております。
　　申込金＝10,000円、残金は3月5日㈭までに。
　　取消しの場合、申込金は返却いたしません。
その他　全員の方に、旅行傷害保険（スポーツ傷害保険を含む）に加入していただきます（保険料は参加費に含まれています）。

お申込み・お問合せは

◆ラケットショップ元町
横浜店　〒231　横浜市中区元町5－203
　　元町スカイビル 4F
　　☎045-662-7133
渋谷店　〒150　東京都渋谷区渋谷1－25－6
　　☎03-400-7390
池袋店　〒171　東京都豊島区西池袋1－19－6
　　☎03-988-0215
吉祥寺店　〒180　武蔵野市吉祥寺本町1－8－5
　　レンガ館モール 3F
　　☎0422-21-7890
コーチ陣　小島一平、疋田清、カワサキ、ヨネックス、サンバタ、ゴーセン各1名
担　当　池袋店・疋田　清
　　☎03-988-0215

特派員だより

埼玉県高校新人戦

〝小さな巨人〟峰が優勝をとげる

11月26、27、28の3日間にわたって、埼玉県上尾運動公園体育館において、埼玉県高校新人バドミントン大会が開かれました。

埼玉県には周知の通り、インターハイでダブルス3位になった伊藤・峰のペアがあります。残念ながら伊藤は3年生のため引退。峰は新しいダブルスで、この大会に臨みました。

今年の男子は、伊藤のようにずばぬけた存在はなく、戦前からかなりの混戦が予想されました。ベスト8以上は、どこのコートを見ても見ごたえのある試合ばかり。相次ぐ熱戦で、3日目のシングルスは、ダブルスの疲れから4シードのうち、準決勝に残ったのは第1シードの峰だけというありさまでした。

峰は〝小さな巨人〟と呼ぶにふさわしい気力を持ったプレーヤーです。体も小さく、そうパワーがあるわけでもないのですが、攻撃力のない分、そのレシーブ力には目を見張るものがあります。どんなに打たれても、ねばってねばってひたすらチャンスを待つというタイプです。

埼玉県は、あまりレベルの高い県とはいえません。しかし今回の大会でも峰より功撃力を持ったプレーヤーは、数多くいました。それなのにその小さな体に秘めた闘志で、それらのプレーヤーに、全てストレートで勝ったのです。チャンスが訪れるまでじっと待つ、その精神力は、〝小さな巨人〟に値するのではないでしょうか。

女子の方は、川口女子高の強さが光っていました。それもそのはず、昨年の関東大会で3位になった時のメンバーが、そっくりそのまま残っているのですから。ただ七条がアキレスけん切断というけがに見舞われたためにダブルスの第1シード、シングルスの第4シードに穴があき、その分他の高校勢が入り込んだという感があります。しかし川口女子の4人（川口、新井、佐野、七条）は、中学の時も全国でベスト4に入ったメンバー。県内で他校に負けることは、まずないでしょう。

それにしても県のトップクラスには、目を見張るような成長がなく、特に男子は、確実にレベルの低下が感じられます。強化合宿、交流会等を増やし、互いにもっとしのぎをけずるような状態にもっていくことが望ましいと思います。中学生の時は全国でも活躍しているのだから、高校生ももっとしっかりしなければならないのではないでしょうか？

〝埼玉県は、中学生は強いが、高校生は……。〟このような汚名を返上するためにも、こんなことを書いている僕自身を含めて、もっとがんばらなくてはと思います。

以下は、今大会の結果です。

▼男子シングルス準決勝

峰（越ヶ谷） 2（15—3, 15—3） 0 侭田（越ヶ谷）

高橋（克）（小松原） 2（15—8, キケン） 0 高橋（昭）（小松原）

▼同決勝

峰 2（15—10, 15—12） 0 高橋（克）

（峰は初優勝）

▼男子ダブルス準決勝

平山 峰 2（15—5, 7—15, 15—10） 1 田中 広田（戸田）（越ヶ谷）

高橋（昭） 斉藤（小松原） 2（15—2, 12—15, 15—12） 1 大浦 中村（越谷南）

▼同決勝

平山 峰 2（15—5, 15—6, 7—15） 1 高橋（昭） 斉藤

（平山・峰組は初優勝）

▼女子シングルス準決勝

川口（川口女） 2（11—7, 11—3, 4—11） 1 山田（春日部女）

佐野（川口女） 2（11—2, 8—11, 11—6） 1 新井（川口女）

▼同決勝

川口 2（11—5, 11—8） 0 佐野

（川口はインターハイ予選に続いて県内2連勝）

▼女子ダブルス準決勝

川口 新井 2（15—3, 15—4） 0 吉沢 利根川（越ヶ谷）

田部井 栗原（行田女） 2（15—8, 15—7） 0 斉藤 浅見（朝霞）

▼同決勝

川口 新井 2（15—4, 15—4） 0 田部井 栗原

（川口・新井組はインターハイ予選に続いて県内2連勝）

（埼玉特派員・宮下良彦）

特派員だより

第10回沖縄県高校新人戦

前評判どおり本永・山城，山内・平良組制す

第10回高校新人バドミントンダブルス選手権大会は、11月24、25日、那覇高校体育館で、男子四十組、女子百三十九組が出場して行われ、実力通り男子は本永・山城組（那覇高）女子は山内・平良組（石川高）が制覇した。

▼男子準決勝

本永（那覇）
山城（那覇）
2
15—8　15—6
0
金城　運天（豊見城）

田場　上原（糸満）
安田（石川）
2
15—4　8—15　15—8
1

▼同決勝

本永　田場
山城　安田
2
15—9　14—15　18—15
1

▼女子準決勝

山内　渡久地
平良　玉城（南部商）
2
15—0　15—9
0

金城　比嘉
徳里（糸満）　不明（那覇）

▼同決勝

山内　金城
平良　徳里
2
15—11　15—4
0

この大会は、来年度のインハイ予選の参考になる大会だけに、各校の選手や監督は、相次ぐ熱戦に、鋭い視線をそそいでいた。男女とも、まだずばぬけたペアが出てきていないだけに、どこが優勝するか、まったく予想がつかなかった。

男子は、シングルスの力のある那覇高の本永が、よく山城をリードし、苦戦を続けながらも決勝へ進んだ。一方の石川高校の田場・安田組は、昨年のインターハイを経験しており、予想では本命とみられていた。試合は、ファイナルになったが、やはり那覇高の本永組が、実力差を示した格好になった。

女子は、昨年のインターハイ予選で3位の実績がある山内・平良組が、一応安定した力をみせ優勝した。しかし、他校の選手のレベルもだんだんにあがってきているような気がした。

現在、沖縄県のバドミントン人口は増えつつある。それは大変喜ばしいことであり、今回の試合のように、少数の高校の上位独占がだんだん減り、高校界全体のレベルアップにつながるだろう。しかし残念なことに、中学校には、バドミントンクラブが皆無の状態であるのだ。全国のレベルに追いつくためには、もっと早い時期からバドミントンに接することが大切だと思う。そしてもっとハイレベルの試合を見せてやりたいものだ。昨年も、サントリーチームや、電電東京の選手が来沖され、私たちの前でプレーしてくれたが、高校生には、大変刺激になったようだ。このような機会をもっとふやし、底辺からの教育に力を入れていきたいと思う。（那覇市・泉健司）

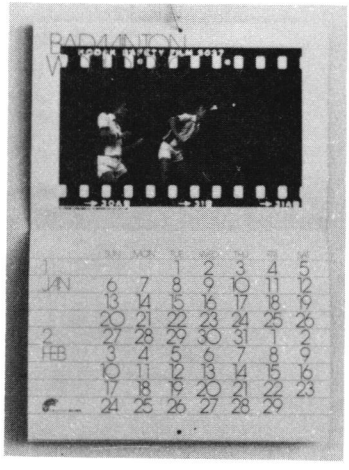
◆バドミントン・ワールド◆
◆カレンダー　1980◆
◆好評発売中◆

毎年おなじみのバドミントン・ワールド・カレンダーの1980年版が発行されました。

今年は壁にかけても、また机の上でも楽しめるA3判にしました。もちろんカラー印刷です。これからの日本を代表する5選手と、世界のトップ2選手を収録しました。

定価は900円で、送料は全国均一で次のとおりです。1部＝300円、3部まで400円、6部まで500円、10部まで600円、11部以上700円。

本誌巻末とじ込みの振替用紙に必要事項を明記のうえ、お近くの郵便局からお申し込みください。



特派員だより

第20回全沖縄総合選手権

招待ペアの今井・松口組、圧倒的な実力

昭和54年度の沖縄チャンピオンを決める第20回全沖縄総合バドミントンダブルス選手権大会、最終日の12月23日は、午前9時から奥武山体育館で行われた。その結果、男子では第20回記念大会ということで協会が出場を要請した今井茂満・松口金彦組（河崎ラケット）が全日本でもトップクラスの迫力あるスマッシュを見せ、県内ペアを寄せつけず優勝。また女子では儀間利子・宮里昌代組（那覇クラブ）がショットをコーナーに散らすうまいプレーで高校・大学ペアの力を封じ、初優勝を飾った。

▼男子準々決勝

松口・今井（河崎ラケット） 2—0 下地・添石（琉大）

中島・末次（琉大） 2—0 山城・本永（那覇高）

大山・泉（那覇クラブ） 2—1 比嘉・荻堂（石川高）

宮城・宇座（九州紙工） 2—0 銘苅・松田（協和産業スポ）

▼同準決勝

今井・松口 0（15—15 15—12 5）

宮城・宇座 2（15—7 11—15 15—17）

1大山・泉

0中島・末次

▼同決勝

今井・松口 2（15—3 15—0）

0宮城・宇座

▼女子準々決勝

宮里・儀間（那覇クラブ） 2—0 前里・与那嶺（浦商職員）

真喜志・酒井（琉大） 2—0 金城・徳里（糸満高）

山内・平良（石川高） 2—0 高木・小禄（大垣女子短大）

棚原・仲吉（中商高） 2—0 与儀・伊良波（那覇高）

▼同準決勝

宮里・儀間 2（15—8 15—7）

0真喜志・酒井

山内・平良 2（15—4 15—4）

0棚原・仲吉

▼同決勝

宮里・儀間 2（15—6 12—15 15—4）

1山内・平良

◇今大会のスポット

ペアとして今年度の沖縄チャンピオンに輝いた儀間利子・宮里昌代組だが、大会前の予想でも勝って当然といわれていただけに、喜びよりもやっと責任を果たしたという表情でしたたり落ちる汗をぬぐっていた。ペアを組んでは初優勝だが、両人とも沖国大時代からこれまで各種の大会で優勝してきただけに、初優勝ということに大会役員もエッと驚くほどのベテラン。県内では名実ともにチャンピオンペアだ。

二人のコンビネーションがいい。色白でふっくらした儀間が優しい顔に似合わず力強いショットを見せれば、宮里がスラリとした肢体を駆使してドロップショット、ヘアピンと鮮やかなテクニックを見せる。それでも試合内容は楽勝というわけではなかった。宮里は「きつかった」と言葉少な。決勝の第2ゲーム、高校生ペアに打ちまくられてこのゲームを取られたことを指すのだろう。「高校生が伸びてきた」と口をそろえるが、国体参加もなかなか果たせない県バドミントン界。「まだまだ2人に引っぱってもらわなくては」と22、23歳の2人にかける関係者の期待は大きい。

（以上54年12月24日琉球新報より）

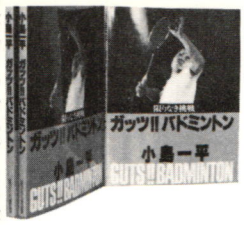
（那覇市・泉健司）


強豪 今井・松口組
県内ペア寄せつけ
女子 儀間・宮里組に
ダブルス選手権
最終日

新入部員必読の書!!

小島一平著 ガッツ!!バドミントン

――限りなき挑戦



第11回トマス・カップ・インターゾーンが行なわれたジャカルタでのこと。現地のファンは口々に「イッペイ・コジマはどうして来ないのか」「彼は元気か」「イッペイ・コジマのプレーは今でもよく覚えているよ」等々、われわれに質問を浴びせてきた。

それほど小島一平の名前は世界的に知られている。

本書は、その小島一平のすべてをさらけ出したものである。体当たり半生記、実戦アドバイス、わがライバルたち、の三部から構成され、巻末には主要大会記録・ルールも収録されている。

新入部員の皆さんにとっては、今すぐ役立つものであり、インターハイ、全国中学等の大会を控えて、ぜひお読みいただきたい書である。

ご希望の方は、本誌巻末とじ込みの振替用紙の「その他」の欄に「ガッツ・バドミントン」と明記のうえ、定価2000円と送料240円を添えて、お近くの郵便局からお申し込みください。バドミントン界編集部

◆日本図書館協会選定図書

スターティング・バドミントン



すぐに役立つ決定版!!
絶賛発売中!!

バドミントン史上最強の天才プレーヤーが，その体験をもとに、初心者・中級者向けにわかりやすく、具体的に解説した入門書の決定版――――――――!!

「本書は、ジュディ・ハッシュマンが豊富な経験をもとに、初心者向きに書いたものですが、さすがにジュディらしく、すぐ実戦に役立つように書かれています。

そのうえ、それぞれの目的に応じた練習法が紹介されているので、本書をただ最初から最後まで読み通すだけで満足することなく、目的意識をもった能率的な練習をするための必要な手引として、そのつどそのつど、コート上で利用する方が、よりいっそう効果が大きいと思われます。

また、たとえトップ・プレーヤーであっても、本書に書かれたジュディの試合に臨む考え方などは、大いに参考になるはずです」――――――――中山紀子

B5判変形・128ページ
定価1200円

本書は全国書店のスポーツ書コーナーで発売中ですが、万一店頭にない場合は送料160円を加えて、本誌巻末の振替用紙をご利用のうえ、お近くの郵便局からお申し込みください。日本バドミントン協会出版局（03－467－3111）

carlton
That's the name of the game

リム・スィー・キング 世界を制す！

Liem Swie King（インドネシア）

- 男子シングルス世界ランキング１位
- '78全英選手権男子シングルス優勝
- '79全英選手権男子シングルス優勝
- '79ワールドカップ男子シングルス優勝
- '79アジア大会男子シングルス優勝
- '79トマス・カップにダブルス，シングルスに出場
  インドネシア優勝の原動力となる。



使用ラケット　カールトン3.7（写真左）　トーナメント（写真右）
重量115ｇグリップ３½インチ　'79全国中学生大会使用球

なんと100g以下という、記録破りの超軽量ラケットです。フレームは特殊アルミ合金、シャフトはフルカーボン。軽さが世界記録なら、そのパワーの凄さもいわば世界記録。まさにヨネックスならではのもの。いま世界は、このヒーローに沸いている。

FULL CARBON SHAFT RACKET

B-8500 Carbonex8

カーボネックス・エイト
フルカーボンシャフト

色……イエロー・オレンジ・グリーン

重量表示……U(100g～95g)・2-U(95g～90g)

YONEX®

